

文部科学省指定事業

新時代に対応した高等学校改革推進事業 (普通科改革支援事業)

令和7年度 実施報告書



「探究学習中間発表会」の様子（令和7年12月18日）

兵庫県立尼崎高等学校



兵庫県立尼崎高等学校



地域科学探究科

(令和7年度設置)

県民スクールミッション

「自主 根性 聡明」の理念のもと、生命の尊厳と人権を尊重する態度やコミュニケーション能力を備え、地域を愛し、地域社会を支え、将来にわたって社会貢献できる人材を育成する。

現在の状況

- 【社会】 予測困難な時代へ
グローバル化・産業の高度化・人口一極集中化
Society5.0の時代の到来・少子高齢社会の到来など
- 【生徒】 主体的に考え行動する力の育成が不十分

1年生

- ・学校設定科目「尼ゼミⅠ」
～尼崎を知る、尼崎と動く～
- ・総合的な探究の時間「セルフ＝ナビⅠ」など

2年生

- ・「尼ゼミⅡ」～尼崎を動かす～
- ・「セルフ＝ナビⅡ」

3年生

- ・「尼ゼミⅢ」 論文作成 発表（ポスターセッション）
- ・「セルフ＝ナビⅢ」

社会貢献できる人材

- ・地元で活躍する人材
自治体職員
教職員
警察官
消防士
救急救命士
地元企業 など
- ・世界で活躍する人材
企業役員
研究者
国際機関職員
海外企業役員 など

新学科設置の目的

Society5.0の時代に求められる生徒の育成
尼崎の都市特性を最大限に活かし、未来を共創する力を育む教育活動の充実
地域社会の持続的な発展や価値の創出に資する探究活動への取り組み

県民の
特色

- ・県民100年の歴史
- ・地域に変えられる学校
- ・地域との豊かな繋がりが
- ・多彩な同窓生の力

魅力的な
取組み

- ・新しい時代に対応したカリキュラム及び教育方法の開発
- ・地域における活動を通じた探究的な学びの実現
- ・学校の中だけでなく多様な社会体験
- 生徒が自分で考える成長を展開する。

《目標達成のために・・・》

- ・教科横断的な学びが得意なようなカリキュラムを編成する。
- ・コンソーシアム連携大学と連携した地域探究授業
- 大学教授や大学生とのWeb会議などの機会を取り入れ、広い学びの環境を作り出す。
- ・「尼ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ」（計6単位）ではフィールドワークで尼崎を知る。課題解決学習で尼崎を動かす。
- ・「セルフ＝ナビ」（計3単位）では、課題発見、課題解決を通して人間力を高める。（目に見えない学力の成長）
- ・学校設定科目
- 「尼崎学」では、地域の課題解決方法について外部の方々と一緒に学ぶ。
- 「コミュニケーション」では、自分を理解し、自分の考えを他者に発信し、チームで取り組む力を育成。
- ・地域と連携した活動・・・インター・ビープル（異世代間交流）
- ・ICTを積極的に活用した学びの充実
- ・少人数授業・習熟度別授業 など

《育成する8つの資質・能力》

- ・目標設定力（計画力）
- ・思考力
- ・自己表現力
- ・実践力・実行力
- ・協働する力
- ・当事者意識（主体性）
- ・振り返る力（メタ認知）
- ・広い視野

コンソーシアム

大学・専門学校等

関西大学
関西国際大学
甲子園短期大学
関西経済福祉専門学校
神戸親和大学

兵庫県

阪神国際センター
尼崎21世紀の森

社会教育機関

図書館 歴史博物館

小中学校・幼稚園等

市内小中学校
慈愛幼稚園

市町村

尼崎市 あまかさ児童観光局
消防署 など

産業界

尼崎商工会議所
(株) JTB
各事業所

地域NPO

尼崎市国際交流協会

学びを支える3Cの役割

学校運営指導委員会
(Council)

- ・カリキュラム・実施方法等の
開発への指導・助言

コーディネーター
(Coordinator)

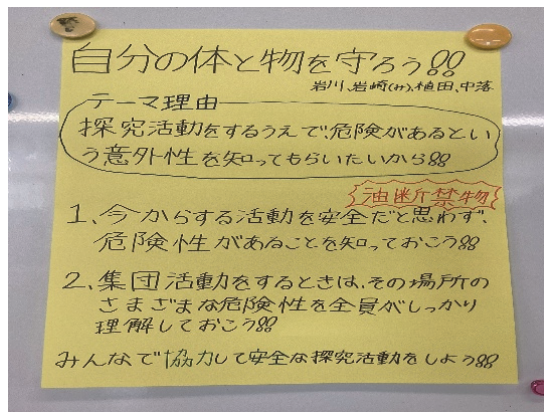
- ・探究的な学習等の企画・立案
- ・関係機関との連携・協働体制の構築
- ・広報活動

コンソーシアム
(Consortium)

- ・探究的な学習等への協力
(出前授業、体験学習、ワークショップ)
- ・協働による探究活動の推進

今年度の取組の様子

4月17日 春休み課題の深堀



4月27日 県尼崎高校フィールドワーク



6月5日 尼崎の歴史と文化（尼崎市立歴史博物館）



6月19日 図書館活用法（尼崎市立中央図書館）



7月9日 環境学習（兵庫県立尼崎の森中央緑地）



7月下旬 班別企業訪問（濱口商店・有限会社寶屋遊亀 ほか）



8月24日 業種別職業体験（尼崎商工会議所）



9月6日 地域イベント運営ボランティア（尼崎商工会議所）



9月18日 大学訪問と特別講義（関西大学 講師：関西大学 山田 剛史教授）



10月5日 尼崎市民祭り（尼崎市立中央中学校）



10月24日 防災学習（北淡震災記念公園・淡路高等学校）



1月29日 探究学習成果発表会（あましんアルカイックホール・オクト）



【兵庫県立尼崎高等学校】 地域科学探究科（種別：地域社会学科）（令和7年度設置）

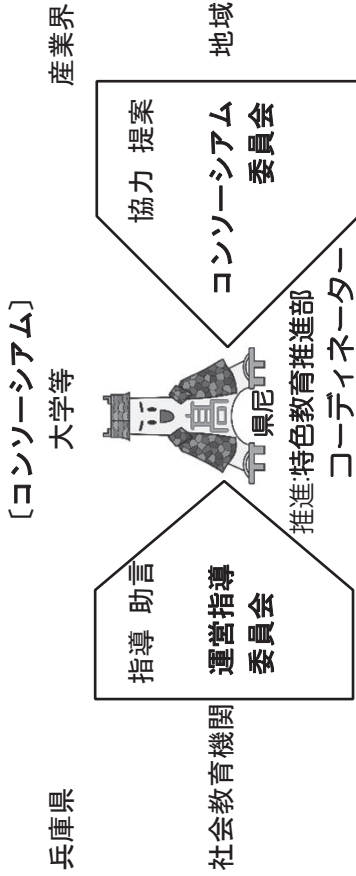
【学科設置の目的】

- Society5.0の時代に求められる生徒の育成
- 尼崎の都市特性を最大限に活かし、未来を共創する力を育む教育活動の充実
- 地域社会の持続的な発展や価値の創出に資する探究活動への取組

【特色・魅力ある教育の概要】

- 改編前の「教育と絆コース」から継承する環境学習・地域貢献活動
- コンソーシアムが支える地域探究活動カリキュラム
- 探究活動を通じた他校との交流活動
- 「尼崎を知り尼崎と動く、尼崎を動かす、尼崎をつなぐ」をテーマに、コア科目「尼ゼミⅠ～Ⅲ」を通して尼崎市域をフィールドにした探究活動の実施

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】



令和7年度の目標

- 1 カリキュラム研究・開発
- 2 外部人材を講師とした講義・研修会等の実施
- 3 コーディネーターの活用と役割の明確化
- 4 改編前の「教育と絆コース」から継承すべき活動の検証・精査
- 5 中学生・保護者・地域への広報活動の促進

取組状況

- 1 年間指導計画の作成と実践
- 2 尼ゼミⅠ」では年間のべ11人（団体）の外部講師による授業実施
- 3 コンソーシアム委員会への出席と地域懇談会の開催
- 4 現行コースの保育・教育の実習体験活動を検証し継続実施の活動を選定
- 5 年3回のオープンハイスクールで生徒による授業等の取組説明と教員による学科説明を実施

成果と課題

- 1 授業担当者を中心とした担当者会議を設置し月1回以上は開催し、機動的に課題を検討する体制を構築できた。【成果】
評価方法とその検証が不十分である【課題】
- 2 探究学習や尼崎について、専門的な知見を有する外部人材の活用は生徒の学びに大変有意義であった。【成果】
教員向けの研修会を年間3回計画していたが、開催日並びに講師選定において、学校行事等との調整が難しく計画通りの実施ができなかった。【課題】
- 3 取組などの説明を丁寧に実施し、協働先との関係強化・拡大ができた。【成果】
学校全体の教育活動への参画の理解と周知【課題】
- 4 尼崎の森での環境学習「尼崎市民まつり参加」「小学校授業実習」「子どもクラブ体験実習は継続実施【成果】
- 5 生徒による説明は学校の雰囲気がかかりやすいと好評【成果】
中学校教員への学科説明が不十分である【課題】

目 次

巻頭言	1
兵庫県立尼崎高等学校 校長 松本 敏尚	
I 事業計画	2
II 事業結果説明	21
III 事業の記録	
1 今年度の活動内容	30
2 運営指導委員会の記録	32
3 コンソーシアム委員会の記録	40
4 アンケート調査	43
5 授業実践の記録	53
6 授業成果発表会の記録	66
7 次年度に向けての計画	70

県立尼崎高等学校地域科学探究科のスタート

～地域と連携し尼崎から“世界”を変える～

兵庫県立尼崎高等学校 校長 松本 敏尚

本校では、今年度から「地域科学探究科」が開講し、一期生40名を迎えスタートしました。

文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」と、兵庫県の高等学校教育改革第三次計画により「教育と絆コース」を改編した「地域科学探究科」が国と県の支援によりスタートすることができました。開設準備に関わっていただいた皆様に感謝申し上げます。

さて、スタートした地域科学探究科ですが、今年度の目標を「尼崎を知る」として、探究学習として「尼ゼミⅠ」の科目をスタートしました。年度当初には、尼崎市総合政策局、尼崎商工会議所、尼崎市立歴史博物館、尼崎市立中央図書館等の地域の皆様に地域（尼崎市）のことについて教えて頂き、関西大学の山田 剛史教授から探究学習における学びのポイント等について講義を受けるなど、これからの学びの基本となることについて学習しました。次に、生徒各自が興味・関心の高いテーマに沿ってグループで活動することとしました。それに加え、市民祭りへの協力、商工会議所主催の職業体験会等の参加、近隣の企業見学・職業人インタビュー等の職場訪問、中央緑地公園での体験等、学校だけでなく、地域の中に飛び込み、社会の仕組みや、環境問題等を肌で感じることができる有意義な経験をさせて頂きました。生徒達も、初めて経験することや、学んだ事を活用し、ポスター作製、イベントのお手伝いや各自の研究などを通して地域課題の発掘、分析、考察の方法等の学習を重ねました。この地域科学探究科が育成を目指す8つの資質・能力（計画力、思考力、自己表現力、実践力・実行力、協働する力、主体性、メタ認知、広い視野）の向上に努めております。

今後、2年生では「尼崎を動かす」3年生では「尼崎をつなぐ」を主な目標として活動することとしております。来年度は、今年度の経験を生かし、さらなる発展を目指し、2年生は今年度の経験を生かしたプログラムを、1年生は今年度のプログラムを検証し、よりよいプログラムへの改善を行ない、生徒各自の興味、関心や特性を生かしつつ、地域科学探究科ならではの学習計画を推進することとしています。

生徒は、この一年間の学習経験の積み重ね大きく成長したと実感していると思います。関係者からも高い評価をいただき、今後の活躍を期待するに十分な一年であったと感じております。

この、「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」は今年度で終了となりますが、地域の皆様や、関係機関との連携を図りながら、都市部における地域に根付いた探究的な学びのプログラムの研究に取組み、「地元で」「世界で」活躍する人材の育成を進めて参ります。今後とも本校の魅力・特色ある教育活動の推進にご協力、ご指導いただきますようお願い申し上げます。

I 事業計画

1 事業の概要

(1) 学際領域学科又は地域社会学科等を設置する学校名・設置（予定）年度

公立・私立・ 国立・株立の別	学校名 (ふりがな)	学科の種類	設置（予定） 年度	決定
公立	兵庫県立尼崎高等学校 (ひょうごけんりつあまが さきこうとうがっこう)	地域社会学科	令和7年度	○

※学科の種類は学際領域学科又は地域社会学科、その他普通科の別を記載すること。

※設置（予定）年度は令和5年度、令和6年度又は令和7年度を記載すること。

※教育委員会等における決定を経ている等、組織として設置が決定している場合には、「決定」欄に○を付すこと。

(2) 学校の詳細

課程別	新学科の 収容定員	学年制・ 単位制の別	学科の名称（決定している場合）
全日制	1学級40名 ×3学年=120名	学年制	地域科学探究科

※課程別は、全日制・定時制・通信制の別を記載すること。

【学校の特徴】

1923（大正12）年に旧制の尼崎市立尼崎中学校として創設。2023（令和5）年度、創立100周年を迎えた伝統校。全日制普通科で1年6クラス、2・3年7クラスの計20クラス。2・3年生は7クラスのうち、1クラスは推薦入試で選抜される「教育と絆コース」。特色化を図るため、2008（平成20）年に「総合教育類型」が設置され、2014（平成26）年「教育と絆コース」となった。コースの核となる科目は、1年の「総合的な探究の時間（教育ナビ）」1単位、2年の学校設定科目「教育体験」2単位、3年の学校設定科目「教育体験」2単位である。本県の高等学校教育改革第三次計画により、2025（令和7）年からコースを新たな普通科新学科「地域科学探究科」に改編。

市域周辺の宝塚市、伊丹市、西宮市等からの入学もあるが、本校生の約9割は市内公立中学校の出身者であることが、大きな特徴となっている。卒業後の進路先は、4年制大学、短期大学、専門学校、就職と多様である。

(3) 当該学科における特色・魅力ある先進的な教育の取組について

【現在の取組と改編後の科目名称】

	教育と絆コース→地域科学探究科	普通科一般クラスと共通
1年	教育ナビ（1）→尼ゼミⅠ（2）	セルフ＝ナビⅠ（1）
2年	教育体験（2）→尼ゼミⅡ（2）	セルフ＝ナビⅡ（1）
3年	教育探究（2）→尼ゼミⅢ（2）	セルフ＝ナビⅢ（1）

*（数字）は単位数、「教育ナビ」「セルフ＝ナビⅠ～Ⅲ」は総合的な探究の時間

本学科では、高校生が持続可能な社会に参画するための基礎となる力を「地域探究力」と位置付け、「地域科学探究科」の軸となる学校設定科目「尼ゼミⅠ～Ⅲ」を設ける。各学年2単位とし、「尼ゼミⅠ」～「尼ゼミⅢ」と段階的に履修することで、「地域探究力」を育成することを目標にし、3年「尼ゼミⅢ」で全員が論文の執筆に取り組む。論文のテーマに表れる「問う力」、論文の内容に表れる「論理的に考える力」、論文の考察に表れる「課題解決力」を1年から積み重ねた探究的学びの力（探究スキル）を習得させながら育てていく。

【1年生学校設定科目「尼ゼミⅠ」2単位】

探究対象を身近な地域社会の課題に絞り、地域が抱える課題や魅力を探究し、気づきを発信、共有する。社会体験等の独自のプログラムを通して、社会への関心を高め、「地域探究力」の基礎になる問いを立てる力、調べる力、まとめる力、他者の意見を傾聴しながら自分の考えを伝える力を育てる。

【2年生学校設定科目「尼ゼミⅡ」・3年生学校設定科目「尼ゼミⅢ」各2単位】

生徒が考えたテーマを、他者にとっても意味のあるテーマや、社会的な課題に繋がるテーマ（問い）と関連付け、自らの進路に繋がるテーマ（問い）へと深めていく。その方法として、社会施設へのインターンシップやNPOのボランティア活動に、生徒が希望によって参加できる機会を設け、自らの体験を裏付けとして探究を深めていく。テーマ（問い）は地域社会の課題とし、他者に気づきを与えるような深い考察に根差したものとする。活動は、3年生「尼ゼミⅢ」まで継続し、研究論文としての成果に繋げる。

【全体像】

フィールドワークやワークショップにおいて地域と協働しながら、地域の課題について個人及びグループ単位で探究し、課題の本質について考察する。課題に対して実践、フィードバックを行う。いずれの段階においても、地域の専門家から指導・助言を受けることにより、計画内容・実施・事後の検討をより高次なものへと変化させていく。計画の実施後、年度末に報告会を実施する。

【持続可能な社会の形成に関する学習】

持続可能な社会を形成するには、行政が担う部分と住民活動が担う部分とがある。住民活動が担う部分として、行政に対して相談や要望をしたり、意思表示をしたりすることや、一市民として自分ができる活動を考え、ソーシャルビジネスとして仕事にすることが考えられる。このように、将来地域に貢献できる社会人となるための資質・能力を養うとともに、地域が抱える問題を世界とも共通する問題と考え、それぞれの活動をグローバルな視点でも捉えていく。

- ・情報の整理、プレゼンテーション等の技能を習得する学習
- ・社会教育機関によるコミュニティデザインに関する学習
- ・本校を活動フィールドとして地域異世代の方々との文化的・体育的交流

2 事業の目的等

(1) 学際領域学科又は地域社会学科等を設置する高等学校を取り巻く状況の分析、学際領域学科又は地域社会学科等を設置する必要性

本校が立地する尼崎市は、兵庫県の南東部に位置する人口約 45 万人（県内第 4 位）の中核市である。東側に位置する大阪と西側の神戸の 2 大都市との間に、近隣市とともに「阪神地域」という大都市圏を形成している。昭和期には工業都市として発展を遂げていく中で様々な公害問題に直面したが、住民、行政、企業が協力して環境改善に取り組み、現在は国の「環境モデル都市」の選定を受けている。現在は、急速な社会変化における、産業の空洞化や産業活動の低迷が課題となっている。江戸時代まで遡れば城下町として栄えるなど歴史と伝統を有したまちでもあり、下町風情も多く残っている。一方近年では、鉄道結節点を中心に大規模な再開発事業が進められ、地理的環境から多様な人材が集まるまちとしての特色も兼ね備えている。

市制 100 周年を迎えた 2016（平成 28 年）には「尼崎市自治のまちづくり条例」が制定され、「対話・協働・シチズンシップ（市民性）」をキーワードに様々な場面で活躍できるまちづくりが示された。そのようなまちのながれの中、尼崎市と県立高校との協働は、今まであまり行われておらず、未来を担う高校生と市の大人たちとの対話・協働によるシチズンシップの向上を推進していく必要があると考えている。

本校は、地域住民や地元企業の創設への強い熱意と寄付により 1923（大正 12）年、尼崎市立中学校として創設された。1930（昭和 5）年に県に移管され県立尼崎中学校となり、戦後 1948（昭和 23）年には県立尼崎高校となり今日に至っている。旧制尼崎中学校から数え創立 100 周年を迎えた伝統校で、3 万名を超える有為な人材を輩出している。現在も在籍生徒の 9 割は市内公立中学校卒業生であり、生活基盤を尼崎市に置く生徒が多い。

教育制度や入試制度が変わる中、2008（平成 20）年、学校の特色づくりとして普通科の 1 クラスに教育職の人材育成を柱とする「教育総合類型」を立ち上げ、その後「教育と絆コース」へと改編した。コースの名称にある「絆」には、阪神・淡路大震災以降、兵庫県で大切にされてきた人と人とのつながり＝「絆」を大切にし、それを育てられる教員になってほしいという強いメッセージが込められており、学校設定科目における保育園やこども園での「保育実習」、小学校低学年を対象にした「授業実習」や「放課後こどもクラブ」、県立尼崎中央緑地公園内・尼崎の森での環境教育活動、異世代の交流機会である「インターピープル」などの学びを通じて地域に貢献し、地域との絆を深める体験重視の活動を続けている。

また、本校は 2018（平成 30）年から 2 年間、文部科学省の「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」事業の指定校となり、学校設定科目「尼崎学」を中心とした実績を積むことはできたが、コロナ禍が影響し、その実績を十分に継承、拡充できていない現状がある。

創設以来の本校の沿革、取り組んできた教育活動の成果と課題、本校生徒の実態などを鑑みると、兵庫県の「県立高等学校教育改革第三次計画」実施に際し、本校「教育と絆コース」を普通科新学科「地域科学探究科」に改編することにより、新学科に学ぶ生徒に生活基盤とするコロナ禍以降の地域社会が抱える諸課題に対応できる力を身に付けさせることができると考えている。「地域探究」は、山間部等の学校が人口減少や地域活性化のために、課題解決に取り組むというイメージがあるが、都市部にも地域課題は山積している。都市部における地域に根付いた探究的な学びのプログラムを研究するには、尼崎市は絶好のフィールドである。本市には、生きた課題が多く存在し、本校生徒も当事者意識の強い課題設定を行うことができる。新学科の設置と教育活動実践は、「社会に開かれた教育課程」を実現し、多様性の時代に必要な資質・能力を育む核となると考える。

(2) 学際領域学科又は地域社会学科等における取組の目的・目標（学際領域学科又は地域社会学科等における教育を通じて育成を目指す資質・能力を含む）

○校訓 スクール・ミッション

校訓である「自主 根性 聡明」の理念のもと、生命の尊厳と人権を尊重する態度やコミュニケーション能力を備え、地域を愛し、地域社会を支え、将来にわたって社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

○スクール・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

- ①地域の課題に関心を持ち、課題解決に取り組むことができる生徒を育成する。
- ②コミュニケーション能力を育て、他者を大切にし、協働することができる生徒を育成する。
- ③生命の尊厳や人権を尊重し、自らを大切に生きていくことができる生徒を育成する。
- ④夢や目標に果敢に挑戦するため、意欲的に学び続ける生徒を育成する。
- ⑤伝統や地域を学び、これらを踏まえ国際理解ができる生徒を育成する。

○「地域科学探究科」取組の目的・目標

- ①地域の様々な分野で活躍する人々と交流することで、地域の課題を知り、地域住民の一人として、その解決に当たることで当事者意識を涵養する。
 - ②地域の課題を出発点として、広く国内外の諸問題に対する関心を喚起し、国際理解、異文化理解を深め、多様な価値観を認める態度を養う。
 - ③地域の中で実践的な学びを行うことで、社会性や人間性を育み、対話力やプレゼンテーション能力等のコミュニケーションに必要な能力を磨き、答えのない課題に取り組むための思考力や判断力、問題解決能力を身につける。
 - ④ICTを活用して情報収集や情報分析を行うことで情報リテラシーの向上を図り、小集団での協働学習を通してリーダーシップやチームワークを身につける。
 - ⑤既存の教科・科目では学ぶことができない自己実現のためのスキルを身につけることで、自身や社会全体の未来を創造する自信や責任感を育む。
- 以上の目的を達成するため、以下の資質・能力の育成に取り組む。

【育成を目指す8つの資質・能力】

目標設定力 (計画力)	自ら高い目標を設定し、目標実現に向けて計画を立てる。
思考力	情報を分析し、問題の原因や構造を深く考え、因果関係を整理する。
自己表現力	自分の気持ちや考え、意見を相手に伝える。
実践力・実行力	掲げた目標や解決したい課題に対して、一歩踏み出し粘り強く取り組み続ける。
協働する力	異なる世代や背景、価値観を持つメンバーとも協働して物事を進める。
当事者意識 (主体性)	身の回りの課題や所属するコミュニティに対して、常に自分事として捉える。
振り返り力 (メタ認知)	目標に照らして、自身の現状を客観的に見つめて改善する。
広い視野	異なる立場を認め、多角的な視点で物事を捉える。

3 実施体制

(1) 管理機関における実施体制や事業の管理方法

【事業実施に向けた経緯】

本県では、「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」に基づき、県立高等学校に関する具体的な取組の考え方と方向性を示す「県立高等学校教育改革実施計画」を策定し、計画的に教育改革を進めてきた。「第一次実施計画」策定（平成 11 年度）以降、「学びたいことが学べる学校づくり」を一貫した基本理念とし、特に、普通科学年制においては、コースの設置に加え、複数の学校設定科目を設定し、生徒の興味・関心を重視した入試を行う本県独自の特色類型を設置してきた。この結果、専門学科の併置校を除く全ての普通科学年制高等学校にコースまたは特色類型のいずれかを設置するに至っている。（コース 15 校、特色類型 55 校）

普通科新学科については、令和 4 年 3 月に策定した「県立高等学校教育改革第三次実施計画」において、設置の方向性を明確に打ち出すとともに、普通科コースの改編を軸とした全県規模の配置を計画的に推進することとし、令和 6 年度に普通科新学科を設置する 7 校を、令和 5 年 3 月に公表した。その中で、探究的な学びを深化させるカリキュラムや学校設定科目の先進的な研究を進める県立御影高等学校と県立柏原高等学校が令和 4 年度から、STEAM 探究科の学びの充実に取り組む県立篠山鳳鳴高等学校と県立姫路飾西高等学校が、令和 5 年度から「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」に指定されている。

令和 6 年度に向けた更なる研究・開発及び体制づくりを進める中で、県立尼崎高等学校と県立淡路三原高等学校は、普通科コースの学びにおいても先進的な取組を行っており、普通科新学科への改編を意識したカリキュラム等の研究を組織的に取り組んでいる。

【事業の実施体制】

- ①「普通科新学科推進委員会（仮称）」の設置
 - ・普通科新学科の設置及び設置を目指す高等学校（15 校程度）を構成員とする「普通科新学科推進委員会（仮称）」を、高校教育課主導で設置
 - ・定期的に研修会を開き、各校の改編に向けた進捗状況を確認するとともに、探究活動を軸としたカリキュラムの展開等について共有
 - ・本事業指定校には、モデル校として中心的な役割を付与
- ②本事業指定校が開催する運営指導委員会等への参画
 - ・本事業指定校の運営指導委員会等に、高校教育課長が委員として参画
- ③本事業指定校に対する県独自の支援
 - ・探究活動に特化した特別教室の整備（ICT 環境等の充実）
 - ・担当指導主事による継続的な指導助言
- ④普通科新学科に関する周知
 - ・普通科新学科の特長等に関する組織的な広報の展開（HP 等の充実）

【事業の管理方法】

- ①本事業指定期間中
 - ・運営指導委員会における進捗状況の把握及び指導助言
 - ・「普通科新学科推進委員会（仮称）」における報告の義務化
- ②本事業指定終了後
 - ・普通科新学科設置後の成果報告を義務化
 - ・本事業終了後の人的配置の検討

(2) 管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

【事業評価の体制】

① 運営指導委員会での検証

- ・ 大学教授等の有識者による、学術的な視点からの継続的な評価
- ・ 外部委員等による、客観的な視点からの継続的な評価
- ・ 高校教育課長をはじめ、担当指導主事による継続的な評価及び指導

② コンソーシアムでの検証

- ・ コンソーシアム構成員による、多角的な視野からの評価
- ・ 高校教育課長をはじめ、担当指導主事による継続的な関与及び助言
- ・ 校内の教職員及び生徒による、計画的な自己評価

③ 「普通科新学科推進委員会（仮称）」での検証

- ・ 普通科新学科設置校及び設置を目指す高等学校を構成員とする委員会での相互評価
- ・ 指導主事による各校の成果に関する相対的な評価
- ・ 探究の指導についての研修会の実施

④ 兵庫県教育基本計画に基づく検証

- ・ 「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」に基づく年度末評価の実施

【事業評価の考え方・観点】

① スクール・ポリシーの適切な設定

- ・ 生徒に身につけさせる資質・能力の明確化
- ・ 資質・能力を育成するために必要な教育課程に関する方針の明確化
- ・ 入学時に期待される生徒像の明確化

② 育成すべき資質・能力に関する評価方法の適切な設定

- ・ 生徒の目標に対する到達度（ポートフォリオ、ルーブリック等）
- ・ 生徒の興味・関心・意欲等に関する教職員の理解度
- ・ 生徒や教職員、協働者に関するコーディネーターの理解度

③ 3年間を通じた体系的なカリキュラムの設定

- ・ 教育目標に則した教科横断的で体系的なカリキュラムの設定
- ・ 学校設定教科を軸とした、探究活動中心のカリキュラムの設定

④ ICT等を活用した授業設定

- ・ BYODをはじめとする情報端末機器を有効に活用した授業の展開
- ・ 急激な社会変化等に影響を受けにくい学習環境の構築

⑤ コーディネーターの有効な活用方法の検証

- ・ コーディネーターの得意分野を生かした学校組織での活用
- ・ コーディネーターによる研究機関や地域社会との接続点の増加
- ・ コーディネーターを軸とする学校内外の協働体制の構築
- ・ コーディネーターの関与によるワークライフバランスの組織的な担保

【具体的な評価指標(例)】

自校の魅力・特色を実感している生徒の割合

【第4期ひょうご教育創造プラン指標】

区 分	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
目標	80.0%	81.0%	82.0%	83.0%	84.0%
実績					

(3) 学際領域学科又は地域社会学科等を設置する高等学校における事業の管理方法

①校内組織の改編

- ・コーディネーターを校務分掌に位置づけ、組織としての役割を明確化
- ・校内の教育活動全体に関するコーディネーターの関与を充実
- ・職員会議等において、事業内容に関する情報を共有化

②普通科新学科設置検討委員会の設置

- ・普通科新学科設置に向けた委員会を校内に立ち上げ、コーディネーターを含む委員により、組織的に改編を推進
- ・普通科新学科設置検討委員会は未決定の課題の検討、計画の策定及び広報を中心に活動する。部長・主任からなる校務運営委員を主たる構成員とし、必要に応じてコーディネーターや生徒等も加えた拡大委員会で組織的に活動する。

③運営指導委員会の開催

- ・運営指導委員会を年間3回以上開催し、専門的な知見を有する大学関係者や企業関係者や自治体関係者、地域NPO等の委員から助言を受けながら、校内の教育活動に対して進行管理、評価、指導を実施
- ・委員会の構成員である県教育委員会事務局から、県全体の施策等を踏まえた指導助言の実施

④コンソーシアム運営委員会の開催

- ・コンソーシアム連絡会を定期的開催し、カリキュラムについて、各専門分野の立場から必要な助言を与え、協働体制を構築
- ・探究活動に関する情報やデータの提供、フィールドワークやインターンシップ等の体験的な学び、ICTを活用した海外との交流の機会を提供
- ・カリキュラムの実施にあたって、必要に応じて、人的、物的な支援を展開
- ・実行されたカリキュラムの成果に関する定期的な報告を受け、必要な助言を付与
- ・普通科専門学科としての特色ある教育課程の推進のため、各種分野において優れた知識・技能を有する社会人等を学校設定教科・科目、総合的な探究の時間等の講師として活用する特別非常勤講師を配置
- ・本県知事部局の国際交流課・国際経済課等との協力のもと、指定校と国内の大学や企業、海外の教育機関との連携強化や、本県SSH指定校等で組織する「兵庫『咲いテク』事業推進委員会」との連携を推進する事業の支援・拡大及び成果の普及を展開

※①～④を関連付けることにより期待される相乗効果

- ・探究活動は、専門的かつ広範囲的な内容を伴うことから、従来の高等学校の教育環境のみでは効果的な実施が困難な状況であるが、多方面の専門家や組織が、事業実施校の教育目標や実施内容に関する情報等を共有することにより、人的支援及び物的支援等を受けやすくなり、内容の深い学びを機能的に実現する可能性が高まる。
- ・生徒が個々に発案して進める探究活動を、校内外の様々な場面で公開していくことにより、生徒の課題意識が社会全体の課題とリンクしやすくなり、より大きな支援等を得た教育活動となり得る可能性が高まる。

(4) 管理機関及び申請校における研究開発の実績（申請校が新設校の場合、管理機関における実績のみを記載）

〔管理機関における研究開発の実績〕			
学校名	指定年度	指定機関	研究主題
神戸長田 尼崎小田 宝塚北 三田祥雲館 明石北 加古川東 小野 姫路西 姫路東 龍野 豊岡	平成16～令和7年度 令和4～令和8年度 平成17～令和7年度 令和元～令和5年度 平成21～令和8年度 平成22～令和6年度 平成18～令和8年度 令和元～令和5年度 令和2～令和6年度 令和2～令和6年度 平成25～令和9年度 平成18～令和8年度	文部科学省	スーパーサイエンスハイスクール 将来の国際的な科学技術関係人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する高等学校等を指定し、理数系教育に関する教育課程等に関する研究開発（実践的な研究を含む。）を行う。
姫路西 兵庫 伊丹 国際	平成26～平成30年度 平成27～令和元年度 平成27～令和元年度 平成27～令和元年度		スーパーグローバルハイスクール グローバルな社会課題を発見、解決できる人材やグローバルなビジネスで活躍できる人材育成するため、質の高いカリキュラムの開発・実践を行う。
兵庫生 野 柏原 佐用 村岡	令和2～4年度 令和元～3年度 令和元～3年度 令和2～4年度 令和2～4年度		地域との協働による高等学校教育改革推進事業 市町村・高等教育機関・産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を行う。
御影 柏原 篠山鳳鳴 姫路飾西 尼崎 淡路三原	令和4～6年度 令和4～6年度 令和5～7年度 令和5～7年度 令和6～8年度 令和6～8年度		新時代に対応した高等学校改革推進事業 学際領域学科又は地域社会学科等の設置に向けてのカリキュラム開発や実施体制の開発等、普通科改革の実現に資する先進的な取組を行う。

〔申請校（兵庫県立尼崎高等学校）における研究開発の実績〕

〔国事業〕

- 平成30～令和元年度（2年間）
文部科学省「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究事業」指定校
- 令和6～8年度（3年間）
文部科学省「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」指定校

〔県事業〕

- 令和4～令和5年度
「兵庫県版学校運営協議会（コミュニティ・スクール）」試行校
- 令和6年度、令和7年度
「兵庫県版学校運営協議会（コミュニティ・スクール）」実施校
- 令和4年度
「高等学校における食育推進事業」研究指定校

〔その他〕

- 令和5年度
（一財）日本新聞協会「2023年度NIE」実践指定校

(5) 運営指導委員会の体制

所属	氏名	主な実績
関西大学教育推進部 副部長/教授	山田 剛史	課題解決型学習（PBL）に専門的知識を有する
関西国際大学副学長	濱名 陽子	家庭教育・幼児教育の社会学に専門的知識を有する
京都産業大学総合生命科学部 生命システム学科教授	佐藤 賢一	質問駆動型学習に専門的知識を有する
三重大学教育学部教授	石川 照子	市民性教育に専門的知識を有する
神戸大学附属中等教育学校校長	高木 勝久	高大連係型探究活動に専門的知識を有する
株式会社アンド代表取締役	小野 義直	共創探究に専門的知識を有する
兵庫県立高等学校元校長	正岡 茂明	学校教育及び地域史に専門的知識を有する
尼崎市立中央図書館館長	安福 眞理子	図書活用活動に専門的知識を有する
兵庫県教育委員会高校教育課長	倉橋 良太	管理機関

(6) 運営指導委員会が取り組む内容

年間3回程度運営指導委員会を開催し、各委員の専門性を生かして、令和6年度は、新学科設置に向けたカリキュラム開発と評価方法、コーディネーターを中心とした校内組織の整備、コンソーシアムの構築や連携、中学校等への周知・広報活動等について支援と助言を行う。令和7・8年度は、学科の設置年度となるため、入学生の状況等を把握し、実施カリキュラムの評価や関係機関との連携の深化等について、具体的な助言を行う。また、本校が「地域科学探究教育」の推進校となり、県内高校への普及に寄与するための発表会や研修会等を行う際の支援や助言を行う。

4 学際領域学科又は地域社会学科等における取組

(1) 学際領域学科又は地域社会学科等におけるカリキュラムや教育方法等の特色・魅力ある先進的な教育の内容（学校設定教科・科目の詳細は別添1「学校設定教科・科目の設定に関する説明資料」に記載。）

各学年において、学校設定科目「尼ゼミⅠ～Ⅲ」を新学科のコア科目として位置づけ、普通科と共通内容の「セルフ＝ナビⅠ～Ⅲ（総合的な探究の時間）」で身につけた資質・能力と関連づけて、より大きな成果が得られるよう計画する。また、地域貢献に繋がる既存コースから引き継いだ環境教育活動や、地域と連携した異世代間交流である「インターピープル」を体験活動とすると同時に、探究活動に関連する選択科目を多く設定することで、実体験に基づいた課題設定、生徒の興味関心に応じて、探究的な学びが深まるプログラムを実施する。

【1年生】 学校設定科目「尼ゼミⅠ」（2単位）

- 1学期 探究活動に必要な基礎的スキルの習得。
 - ・コンソーシアムの自治体・地元企業・大学等の方々を講師として招き講義を受ける。
- 2学期「尼崎を知り、尼崎と動く」をテーマに地域のことを学ぶ
 - ・図書館・公民館等を利用して調べ学習やフィールドワーク、体験学習、地域との協働学習（イベント参加も含む）を行う。
- 3学期 1年間の集大成
 - ・活動成果の報告会を実施し、先輩からの助言を受ける。
- 特別活動 地域異世代間交流行事「インターピープル」等

【2年生】 学校設定科目「尼ゼミⅡ」（2単位）

- 1、2学期 「尼崎を動かす」をテーマに地域課題の解決を探究する。
 - ・興味関心があることからテーマ（問い）を設定し、地域での探究活動を行う。
 - ・グループで分野別に地域課題研究⇒グループで発表⇒個人での地域課題研究に深化させる⇒個人で論文作成
 - ・個人で地域課題研究⇒個人で発表⇒論文作成
- 3学期 1年間の振り返り 中間発表会の実施
- 選択科目 「尼崎学」（2単位） ※学校設定科目
 - ・自分たちが住む尼崎がどのようなまちであるかを学び、地域とどのように関わっていくかを探究していく。
 - ・授業内の発表だけでなく、地域に向けても実践を発表する。
- 特別活動 尼崎の森での環境教育活動等

【3年生】 学校設定科目「尼ゼミⅢ」（2単位）

- 1学期 論文作成・発表準備
- 2・3学期 発表（ポスターセッション）、下級生の指導、3年間のまとめ・振り返り
- 選択科目「コミュニケーション」（2単位） ※学校設定科目
 - ・手話やコミュニティ・ダンス等の体験活動、スピーチやエッセイライティング、プレゼンテーションの演習を通して、情報を発信する力（メディア活用能力含む）と自分の意見を他者に伝える力を身につける。対話を重視した協働的な学びを展開。

(2) コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制の構築の考え方・方法

令和4年度から「兵庫県版学校運営協議会（コミュニティ・スクール）」試行校の指定を受け2年が経過した。本校では尼崎市全体を基盤地域と捉え、尼崎市（行政）、尼崎商工会議所、関西国際大学、地元自治会等、各機関の代表者に委員を委嘱している。

「学校運営協議会」では、組織の実効性を伴わせるために、委員と教職員の会議での意見交換で終わらせず、実際に生徒が地域に出て、探究を行っている場面でも、委員が指導をする取組を進めた。その結果、探究の学びが自走し始めている（例、学校設定科目「尼崎学」）。具体的には、生徒自身が市の事業内容を調べ、活動発表の場や協力機関、またその活動を実現できる金額が補助される事業を探している。

令和6年度は、「学校運営協議会」を「コンソーシアム委員会」へ移行し、協力体制を継続・発展させた。地域との連携を継続しつつ、新しい形で地域と繋がりながら探究活動を展開し、新学科の設置へと繋げていく。

新学科では、生徒が興味ある課題に対して探究を実施することを持続可能な取組として継続させていくため、今まで構築してきた地域や卒業生との繋がりを活かした協働体制をさらに強固なものとして、有効なコンソーシアムの構築を目指す。

【目的・目標】

地域に根差した教育活動が円滑に実施できるよう、コンソーシアムを活用して地域資源（人・モノ・カネ・情報）へ協力や支援を求める。また、カリキュラムや探究活動についても、コンソーシアム委員会において情報交換をし、助言をいただき、地域の様々な資源と繋がる魅力的なカリキュラムづくりを目指す。新学科においても魅力的な学びを展開することで、学校・生徒・保護者・地域が、それぞれの満足度を向上させていく。コンソーシアムを核に学校と地域が一体となり、地域ニーズを反映した選ばれる学校づくりを目指す。

(3) コンソーシアムの構成員

所属	氏名	主な実績
関西国際大学国際コミュニケーション学部観光学科准教授/ 高大連携室長	前田 哲男	令和5・6年度本校「学校運営協議会」 会長
尼崎商工会議所産業部地域振興 グループ課長	養田 茂雄	令和5・6年度本校「学校運営協議会」 委員
尼崎市総合政策局中央地域振興 センター中央地域課課長	津田 江美	令和5・6年度本校「学校運営協議会」 委員
尼崎市中央地区大物第八社会 福祉協会会長	森 弘	令和5・6年度本校「学校運営協議会」 委員
株式会社JTB神戸支店教育 営業第三課課長	西 雄大	令和5年度、（一社）あまがさき観光 局との協働事業の計画

(4) 配置するコーディネーターの属性や役割

所属	氏名
尼崎市立大庄中学校学校評議員、尼崎市民生委員・児童委員	松永 和子
四天王寺大学教育学部2回生（本校卒業生）	守本 龍人
本校カリキュラム開発専門家	林 保典

※必要に応じて行を追加すること。

当該者の主な実績

(A) 松永 和子 氏 令和4年度本校PTA副会長。尼崎市民生委員・児童委員 主任児童委員。
(B) 守本 龍人 氏 四天王寺大学教育学部2回生。令和5年度本校普通科「教育と絆コース」卒業生。令和4年度生徒会長として、「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」や「兵庫県スマホサミット」に参加。
(C) 林 保典 氏 令和6年度カリキュラム開発専門家。令和5年度本校「学校運営協議会」に記録者として参加。

コーディネーターが取り組む内容（勤務形態を含む）

以下の内容にコーディネーター3名が連携して取り組む。（A～Cの記号は、主として活動するコーディネーターを示す。）
【1年目】 学校と地域社会の協働体制づくり <ul style="list-style-type: none">・学校と地域の様々な人や組織を繋ぐ高校魅力化を推進する協働体制の構築（A）・多様な人の思いを繋ぐビジョンの共創（A・B・C）・学校と地域の協働による事業計画の策定（A）・事業推進のための協議会等の運営（A・C）
【2年目】（地域科学探究科1年目）
(1) <u>社会資源を活用した地域協働の基盤づくり</u> <ul style="list-style-type: none">・大学・民間企業等との提携、専門知や技術・サービスの活用（A・B・C）・インターンシップやボランティア、外部専門家等の外部人材の確保（A・B・C）・活動助成金等の外部資金の情報収集と獲得（A・C）・他地域との連携・協働、国や都道府県との折衝（A）
(2) <u>新たな人の流れと多様性ある教育環境づくり</u> <ul style="list-style-type: none">・卒業した生徒と学校や地域を繋ぐ、成長・貢献機会の提供等（A・B・C）
(3) <u>地域社会での学習機会づくり</u> <ul style="list-style-type: none">・学校教育と社会教育の間を繋ぐ、放課後や休日の学び場等の環境整備や企画・調整（A・B）・生徒と学校外の様々な学習機会を繋ぐ地域活動・社会体験等の調整・支援（A・B・C）
【3年目】（地域科学探究科2年目） 地域社会に開かれたカリキュラムづくり <ul style="list-style-type: none">・地域社会と教育課程さらに教科間を繋ぐカリキュラムデザインや、授業・部活動・生徒会等の地域での活動と学びを繋ぐ課題解決型学習の企画・実施支援（A・B・C）
※勤務形態 令和7年度は、3名とも非常勤とする（変則勤務形態）。 <ul style="list-style-type: none">(A) …1日5時間、週3日勤務、年間40週(B) …1日4時間、年5日勤務(C) …1日2時間、週2日勤務、年間40週 ※交通費不支給

(5) 学際領域学科又は地域社会学科等の設置及び設置に向けた検討に関する生徒、保護者、地域等への説明の実施

令和7年度、普通科新学科「地域科学探究科」設置のため、以下の広報活動を実施する。
広報先は、中学生・中学生保護者・地域住民・尼崎市役所（行政）・市内企業等。

また、外部関係機関については、新学科の教育活動に協力いただく依頼も含む。

①「地域科学探究科」に関するチラシ、パンフレット、ポスターの作成・配布

- ・トライやるウィーク実習に参加した中学生、生徒、教員が協働し、広報について考える。
- ・地域関係者等からアイデアを募り、「地域科学探究科」の魅力伝えるチラシを作成する

（コースから新学科への変更、カリキュラムの内容等）。

- ・チラシの配布は、尼崎市内の中学校3年生及び中学校教員・地域外部関係機関・企業等。
- ・ポスターは、学区内の駅やスーパー、生涯学習プラザ等尼崎市内の各所に掲示する。
- ・チラシ配布及びポスター掲示の依頼にあたっては、本校生と本校職員がチラシやポスターを人から人へ渡すことを基本とし、思いを伝えながら広報を進める。

②学校ブログ、SNS（Instagram）等による情報発信

- ・令和7年度を目途に、学校のホームページの刷新及び、スマートフォン向けサイトの新設を実施する。
- ・SNS（Instagram）等を活用し、学校全体の魅力ある教育活動を高校生の目線で発信する。

③オープン・ハイスクールなど（中学生・保護者・地域等への広報）

6月	尼崎市内公立高等学校合同説明会
6月	第1回オープン・ハイスクール/新学科「地域科学探究科」説明会
9月	第2回オープン・ハイスクール
11月	第3回オープン・ハイスクール

④学校関係者への説明

4月	尼崎市内中学校へ教員向け資料配布、高大連携協定校への説明
5・6月	P T A総会での説明、市内行政機関各種会議にて説明、地域への説明
7・8月	学校評議員会・学校運営協議会・尼崎市内各種団体への説明及び協力依頼

⑤授業成果発表会を通じて情報の発信

中学生・保護者・中学校教員・行政・企業・地域の方々等広く広報を行い、生徒の探究の成果を知ってもらう（関係校、地域、保護者にも公開）。

⑥マスコミへの取材依頼

探究の取組の一つとして、活動生徒がマスコミ各社に取材依頼を行う。

5 実施計画

(1) 3ヶ年の実施計画の概要

1年目（「地域科学探究科」設置準備）

新学科の目標を確認しながら「何を学ぶか」、そして主体的・対話的で深い学びの実現のために尼崎市のフィールドで「どのように学ぶか」を共有しつつ、新設する校内組織である「普通科新学科設置検討委員会」で本学科での具体的な学習の取組内容を検討し、新学科カリキュラム開発を更に進めていく。

核となる内容については、「運営指導委員会」での指導・助言をもとに「普通科新学科設置検討委員会」で見直しを行い、「教育と絆コース委員会」や「教育課程委員会」とも連携して具体的な学習内容を固めていく。

年間計画及び学習展開内容（活動場所）について、「校務運営委員会」「職員会議」で本校教職員へ内容等を周知していく。また、「職員研修会」と並行して「コンソーシアム委員会」（学校運営協議会）を実施し、教育環境を整えていく。こうした取組を「学校評議員会」「運営指導委員会」で説明し、意見や助言を受け、R-PDCAサイクルで検証しながら進めていく。

- ・入学者選抜の検討
- ・市内関係機関との連携協力のもと、学科の特色ある学びの先行実施（尼崎学）
- ・他校生との探究会議を実施するためのネットワークの構築（先進校に学ぶ）
- ・探究学習の年間計画策定及びルーブリック・評価規準作成
- ・中学生及び保護者等へ広報活動
- ・“地域と絆”探究発表会（仮称）

2年目（「地域科学探究科」設置1年目）

- ・新学科カリキュラム開発
- ・探究学習の年間計画策定及びルーブリック・評価規準作成
- ・魅力ある学びの先行実施
- ・連携強化（高大連携の強化及び内容の見直し）
- ・校内組織体制の強化
- ・“地域と絆”探究発表会（仮称）
- ・他校生との探究会議（地域探究の同じ課題に取り組んでいる他校生とのネットワークの構築、交流開始）
- ・広報活動

3年目（「地域科学探究科」設置2年目）

- ・関係機関の連携協力による教育活動実施
- ・新カリキュラム実施に向けた校内体制の見直し
- ・各教育活動ルーブリック・評価規準の検証・見直し・各教育活動への反映
- ・地域資源を活用した「尼ゼミⅠ・Ⅱ」の充実
- ・地域と連携した特別活動・課外活動の計画・実施
- ・他校生との探究会議によるネットワーク参加校における協働活動の推進
- ・地域・学校活性化に向けた2年間の生徒支援の検証等による総括、次年度以降の計画策定

(2) 今年度の計画の内容

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月	・ 指定校視察①（伊丹市立伊丹高等学校）	・ 地域関係団体との懇談会①
5月	・ 指定校視察②（滋賀県立守山北高等学校） ・ 外部講師による特別講義①	・ 第1回コンソーシアム委員会（学校運営協議会） ・ 学科説明会① ・ 職員研修会①（外部講師）
6月	・ 第1回運営指導委員会 ・ 指定校視察③（広島市立美鈴が丘高等学校）	・ 尼崎市内公立高等学校合同説明会
7月	・ 環境学習①（県立尼崎の森中央緑地） ・ 外部講師による特別講義②	・ 学科説明会② ・ オープン・ハイスクール① ・ 学校評議員会①
8月	・ 兵庫県阪神南県民センター「環境フォーラム」での発表（尼崎市） ・ フィールドワーク「尼探」 ・ 大学訪問・特別講義①（芸術文化観光専門職大学） ・ 長崎県立松浦高等学校との交流会 ・ 第2回運営指導委員会 ・ コーディネーター対面研修①	・ 四者（生徒・保護者・地域・学校各代表）懇談会 ・ 職員研修会②（校内）
9月	・ 大学訪問・特別講義②（関西大学） ・ 指定校発表会（文部科学省） ・ 指定校視察④（愛知県立惟信高等学校）	・ オープン・ハイスクール②
10月	・ 「森のフェスタ」実習（県立尼崎の森中央緑地） ・ 小学校実習の模擬授業 ・ 指定校視察⑤（大阪府立狭山高等学校） ・ コーディネーター対面研修②	・ 職員研修会③（外部講師）

1 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間 ・小学校での授業実習（尼崎市立金楽寺小学校） ・指定校視察⑥（愛知県立美和高等学校） 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープン・ハイスクール③ ・第2回コンソーシアム委員会（学校運営協議会）
1 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による特別講義③ ・防災学習 ・環境学習②（県立尼崎の森中央緑地） 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修会④（外部講師）
1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・“地域と絆”探究発表会（仮称） ・第3回運営指導委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域関係団体との懇談会②
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・伊丹市立伊丹高等学校「伊丹探究フォーラム」での発表 ・県教育委員会「兵庫県立高等学校探究活動発表会」での発表（神戸市） ・コーディネーター対面研修③ ・コーディネーター全国フォーラム 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回コンソーシアム委員会（学校運営協議会） ・学校評議員会②
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・「知の探究発表会」での県立柏原高等学校との交流（丹波の森公苑ホール） ・インターピープル（異世代間交流事業） ・環境学習③（県立尼崎の森中央緑地） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域関係団体との懇談会③

(3) 事業の進捗状況の定期的な確認や改善の仕組み（事業のアウトプットやアウトカムの考え方、目標指標の設定は別添2「目標設定シート」に記載。）

「運営指導委員会」「コンソーシアム委員会」において事業の進捗状況を確認する。各委員会での意見をもとに推進していく点、見直しが必要な取組等改善策を検討していく。状況を可視化し、学習者・指導者・支援者がわかりやすい分析に努める。この評価システムは、出来・不出来を見るのではなく、魅力を活かすためのアセスメント（診断）と捉える。よって、学習者・指導者・支援者等が客観的に自らのありようを知る手段として「評価」を活用する。

①生徒の成長を指標化する（視点）

以下の力について、ルーブリックを開発、活用することで評価（アセスメント）する。評価することによって、強み・伸び代を把握することができる。

主体性	自ら課題を設定し、意志をもって（粘り強く）挑戦・行動する姿勢
協働性	多様な人と協働し、新たな価値の創造に向かう姿勢
探究性	未来（よりよい人生と社会）づくりに向け、学び成長しようとする姿勢
社会性	地域や社会の課題を自分事として捉え、積極的に貢献しようとする姿勢

②大人のあり方を指標化する（教員の資質向上・学外支援者のあり方）

大人（教員・支援者等）のあり方は、学校・地域の学びの土壌を豊かにしていくために重要である。「学び」は、子供も大人も相似形であるため「大人向け調査」も試行的に実施する。そして、大人の率先垂範による土壌づくりへの寄与に関する自己評価と、生徒による土壌評価を比較することを試みる。最終的には、教師の役割を知識の教授者から、生徒の学びの伴走者に変えていくことが目標である。

③外部機関との連携

②の調査結果に基づいて、「行動及びプログラムの改善に繋げる手段」を本学科の魅力化に関わる学校内外の関係者（各種委員会等）で共有、検討する。

また、「運営指導委員会」「コーディネーター」「コンソーシアム」等、それぞれの組織が持続可能な形で進められるよう計画的に実施する。

④中学生、保護者への視点

生徒は、ICTも積極的に活用しそれぞれの学力や学習スタイル、目標などに応じて主体的に学びを進める。また、様々な対話や教科横断的な探究活動等に取り組むことで知識・技能の習得と活用を往還し、学力を伸ばしていく。学校教育活動全体を通して生徒の活動を評価し、家庭とも情報共有を密に行う。

⑤カリキュラムマネジメントの視点

上記調査結果等から読み取れる本校生の意識・行動、また学びの環境や大人のあり方の特徴・実態を把握する。その結果から教育課程及び学校行事等を見直し、新学科の検討を進める。

6 成果の普及のための仕組み

① 中学校への普及

- ・オープン・ハイスクールや学校説明会等で生徒がファシリテーターとなって、探究活動を紹介し、模擬授業形式で中学生に体験させる。また、中学生の保護者にも同時に見学機会を設ける。
- ・本校生が自分の近況報告を兼ねて出身中学校に訪問する。チラシ・ポスターを持参して新学科を紹介する。

② 校内での情報共有

- ・大人（教員および学外支援者）が新学科のミッションを理解し、探究に対して同じベクトルで進むことができるよう、研修等を通して共通理解に努める。
- ・生徒が、主体的に学ぶことができるようICT機器を活用し、協働的な学びを深められる環境づくりに努める。その際、様々な形で成果発表を行い、全校生徒へ情報を共有する。

③ 校外への発信

- ・探究成果発表会（仮称）等を開催し、外部の方々へ取組内容等の情報を発信する。
- ・ホームページやSNS（Instagram）等で発信する。
- ・県教育委員会主催の各種研修会での先行事例として発表・報告する。
- ・本校学校行事「インターピープル（地域異世代交流行事）」で世代を超えた地域の人々との交流を図り、新たな地域行事の協働開催を検討する。

7 国の指定終了後の取組継続のための仕組み

SDGs 実現に向けた人材育成推進に関する連携協定を尼崎市と締結し、地域（尼崎市）とともに未来を創る学びの具体化に向けた取組を進める予定である。また、本事業の活動内容を継続して推進する組織体制づくりを運営指導委員会の指導・助言を受けながら構築していく。「探究」をキーワードに多様な視点を融合させる形で、本校の独自の学び方を構築する。

1 コンソーシアムの継続的な連携が続く仕組みづくり

国の事業指定期間内に確立した学校内外での組織・関係を引き続き活用し、更なる連携・協働を発展させる。

- ① 想いを共有する意志ある仲間（チーム）づくり
- ② 多様な主体による共同体制（コンソーシアム）づくり
- ③ 共に作りたい未来の姿（ビジョン）づくり
- ④ 計画・実行・評価・改善の仕組み（PDCAサイクル）づくり

2 コーディネーター機能の維持

教員のコーディネーター機能の移行やコーディネーター加配に関する予算の確保等の課題に対し、望ましいあり方について指定期間内に検討する。

3 取組を継続するためにかかる費用を確保する仕組み

県独自の関連事業に積極的に応募・申請するとともに、コーディネーターの人件費や行事におけるバス借り上げに係る費用等は、従前のPTA「教育活動振興会費」等を活用できるよう、引き続き保護者に理解と協力を求めていく。

【実施計画書(普通科改革支援事業)別添2】

ふりがな	ひょうごけんりつあまがさきこうとうがっこう
学校名	兵庫県立尼崎高等学校

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）
目標設定シート

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標値(年度)
(成果目標)						
生徒の成長の視点、8つの力の育成						単位：4点満点
a	本事業対象生徒：		2.8	3.0	3.2	3.2
	本事業対象生徒以外：		2.6	2.8	3.0	3.0
目標設定の考え方：育てたい8つの力を探究ルーブリックによる自己評価で測る						
(成果目標)						
外部機関との連携						単位：機関数
b	本事業対象生徒：		6	8	10	10
	本事業対象生徒以外：		3	4	5	6
目標設定の考え方：コンソーシアムを通じて連携する企業や機関の数						
(成果目標)						
学習における探究活動の重要度の認識						単位：%
c	本事業対象生徒：		60	70	80	80
	本事業対象生徒以外：		50	55	60	60
目標設定の考え方：学習における探究活動の重要度について、生徒アンケートで調査する(肯定的に回答する生徒の割合)						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
全校生徒数(人)		806	810	777	753
本事業対象生徒数			40	40	80
本事業対象外生徒数			770	744	676

Ⅱ 事業結果説明

1 事業の実績

(1) 事業の実施日程

事業項目	実施日程(令和7年4月1日～令和8年3月31日)												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
カリキュラムや教育方法等の検討・開発・実施													
カリキュラム開発会議	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
外部講師による講座・研修	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●
関係機関との連携協力体制の構築・維持													
運営指導委員会				●							●		●
コンソーシアム会議		●											●
先進校視察									●				
コーディネーター													
コーディネーター(松永氏)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コーディネーター(林氏)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コーディネーター(守本氏)							●					●	●
新学科設置に向けた説明会等の実施													
新学科説明会、オープン・ハイスクール、 高校合同説明会			●	●		●		●					
成果発表・成果普及													
成果発表会									●	●			●
連携高校との交流会							●				●	●	
成果検証													
校内アンケート		●										●	
運営指導委員会				●							●		●

(2) 事業の実績の説明

① カリキュラムの検討内容

本校は、文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」の指定を受け、スクール・ポリシーの策定、カリキュラムの実施・評価・改善に取り組んだ。指定2年目となる今年度は、地域科学探究科の開設年にあたり、従来の「教育と絆コース」の2・3年生と、地域科学探究科1年生との探究活動における縦の連携を推進した。

現行コースの探究学習と、新学科の教育課程の核となる学校設定科目「尼ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、および3年間の「総合的な探究の時間」の内容については、6年度に新設した特色教育推進部を中心とする担当者会議で定期的に協議し、カリキュラムを検討した。その結果、学校設定科目と「総合的な探究の時間」を3年間で一貫して見通す計画を整備するとともに、学校設定科目「尼ゼミⅠ」および普通科と共通で実施する第1学年の「総合的な探究の時間」の年間計画を策定した。

年度末まで担当者会議を継続し、次年度に実施する「尼ゼミⅠ」および「総合的な探究の時間」の評価方法についても決定した。

次年度は、今年度の探究学習計画の検証を踏まえ、地域科学探究科における校外研修のあり方や地域イベントとの連携方法について、実施と評価を重ねながら改善を図る。

【本校スクール・ミッションと「地域科学探究科」のスクール・ポリシー】

本校のスクール・ミッション 「自主 根性 聡明」の理念のもと、生命の尊厳と人権を尊重する態度やコミュニケーション能力を備え、地域を愛し、地域社会を支え、将来にわたって社会に貢献できる人材を育成する。	
新学科のスクール・ポリシー	育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー） ① 地域の課題に関心を持ち、課題解決に取り組むことができる生徒を育成する。 ② コミュニケーション能力を育て、他者を大切にし協働することのできる生徒を育成する。 ③ 生命の尊厳や人権を尊重し、自らを大切に生きていくことのできる生徒を育成する。 ④ 夢や目標に果敢に挑戦するため、意欲的に学び続ける生徒を育成する。 ⑤ 伝統や地域を学び、これらを踏まえ国際理解ができる生徒を育成する。
	教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー） ① 基礎的・基本的な学力や技能を定着させるため、少人数授業や習熟度別授業を展開する。 ② 地域の教育力を活用した探究活動や体験活動を展開する。 ③ 大学との連携を行い、より高度な知識や体験を取り入れた探究活動を展開する。 ④ 自らの目標達成、社会的自立に向けたキャリア教育を展開する。 ⑤ 進路目標達成のための選択科目（学校設定科目等）を展開する。

<p>入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>① 基礎基本を理解し、現状に満足することなく学習活動に真摯に取り組む姿勢のある生徒。</p> <p>② 規範意識が身につけており、自ら考え行動しようとする生徒。</p> <p>③ 自らの目標を明確に持ち、目標に向かって諦めることなく努力できる生徒。</p>

【外部人材を講師とした講義・職員研修会等】

実施内容	実施日	講師
職員研修会	5月22日	(株) アンド 代表取締役 小野 義直
特別講義（関西大学）	9月18日	関西大学 教授 山田 剛史
特別講義	12月18日	関西国際大学 副学長 濱名 陽子

地域科学探究科の探究学習を推進するにあたり、生徒だけでなく教職員も、地域に関する知識や技能、また探究的な学習方法を身につける必要がある。そのため、専門的知見を有する運営指導委員による研修は大変有効であり、教職員の指導力向上に寄与した。さらに、生徒にとっても、外部講師による特別講義を受講することで探究学習への理解が深まり、学びへの意欲向上につながった。

一方で、2年目となる本年度は、計画段階で多くの外部講師による特別講義や授業支援を予算化していたものの、学校行事との日程調整が難しかったことや、各課題に適した講師情報を十分に得られていなかったことから、当初の計画どおりに進めることができなかった。

次年度は、年間行事や学習進度を見据え、より適切な時期に職員研修会や生徒向け特別講義等を実施できるよう調整を進めていきたい。そのためにも、講師候補の情報収集の強化や早期の調整を図り、効果的な探究学習の実施体制を整えていく必要がある。

【指定校間の交流】

今年度は、県の内外を問わず事業指定を受けている学校との交流を積極的に行い、事業実施の成果をより高めることを目的にした、次年度についても、指定校との交流を積極的に進め、生徒間での交流を定着させていきたい。

取組	実施日	関係校
学校訪問（教員）	12月9日	愛知県立惟信高等学校
学校訪問（教員）	12月10日	愛知県立美和高等学校
相手校発表会参加、発表（生徒）	10月22日	長崎県立松浦高等学校

② 管理機関による事業の実施体制や管理方法

本県では、令和4年3月策定の「県立高等学校教育改革第三次実施計画」において、普通科

新学科の設置方針を示し、普通科コースの改編を中心とした全県的な再編を計画的に推進している。

県立尼崎高等学校は、普通科コースにおける学びの充実に向けて先進的な取組を行ってきた学校であり、地域科学探究科のさらなる充実と地域を題材にした探究活動を通じて、地域社会の現状と課題を理解し、解決策を提案できる高校生を育てること目的にカリキュラム研究を組織的に行っている。

事業の実施にあたっては、高校教育課高校教育改革班が窓口となり、普通科改革支援事業の申請や関係機関との連絡協力体制の構築、校内の組織体制、カリキュラム開発の助言、指導を行っている。また、運営指導委員会等へ担当指導主事を派遣し、大学・企業・関係機関の専門家との意見交換を行いながら、事業の成果と評価に基づく指導・助言を行った。

活動日程	活動内容
5月23日	第1回コンソーシアム委員会の開催 ・令和7年度の事業方針の説明
7月24日	第1回運営指導委員会による指導助言 ・令和7年度の事業方針の説明、今後の事業内容に対する指導助言
1月29日	第2回運営指導委員会による指導助言 ・令和7年度の事業報告について ・令和8年度の事業計画について
1月29日	令和7年度探究学習成果発表会を主催 ・生徒の探究成果発表の場を提供するとともに、教員、生徒の探究を深めるための学びの機会を提供
3月5日	第3回運営指導委員会による指導助言 ・令和7年度の事業報告について ・令和8年度の事業計画について
3月5日	第2回コンソーシアム委員会の開催 ・地域科学探究科の”地域と絆“探究発表会の参観
3月17日	第3回コンソーシアム委員会の開催 ・令和8年度「尼ゼミⅠ」「尼ゼミⅡ」における地域連携、地域協働について

③ 高等学校における事業の実施体制や管理方法について

【事業の実施体制】

(1) 校内組織の改編

- ・コーディネーターを校務分掌に位置づけ、組織としての役割を明確化した。
- ・校内の教育活動全体に関するコーディネーターの関与を充実させた。
- ・職員会議等において、事業内容に関する情報（カリキュラム開発および事業進捗状況、先進校訪問報告等）を共有した。

(2) 地域科学探究科担当者会議の設置

- ・特色教育推進部を中心とする担当者会議を設置し、機動的に課題を検討する体制を構築した。必要に応じてコーディネーターや校務運営委員会の主要メンバーを加えた拡大委員会を開き、探究学習の課題を検討する体制ができた。

(3) 運営指導委員会への参加

- ・年間3回開催される運営委員会において、専門的な知見を有する大学関係者、企業関係者、自治体関係者等の委員から助言を受けた。

(4) コンソーシアム委員会の開催

- ・コンソーシアム委員会を年間3回開催し、カリキュラムについての各専門分野の立場から必要な助言と協働連携事業の提案を受けた。

【事業の管理方法】

(1) 運営指導委員会での報告

- ・本事業で実施した教育活動について進行管理、評価、指導を受けた。
- ・県教育委員会事務局から、県全体の施策等を踏まえた指導助言を受けた。

(2) コンソーシアム委員会での報告

- ・本事業で実施した教育活動や本校が提案する地域協働について評価、指導を受けた。

④ 運営指導委員会の体制および取組

所 属	氏 名	主な実績
関西大学教育推進部 副部長/教授	山田 剛史	課題解決型学習（PBL）に専門的知識を有する
関西国際大学副学長	濱名 陽子	家庭教育・幼児教育の社会学に専門的知識を有する
京都産業大学生命科学部 産業生命科学科教授	佐藤 賢一	質問駆動型学習に専門的知識を有する
三重大学教育学部教授	石川 照子	市民性教育に専門的知識を有する
神戸大学附属中等教育学校校長	高木 勝久	高大連係型探究活動に専門的知識を有する
株式会社アンド代表取締役	小野 義直	共創探究に専門的知識を有する
兵庫県立高等学校元校長	正岡 茂明	学校教育及び地域史に専門的知識を有する
尼崎市立中央図書館館長	安福 眞理子	図書活用活動に専門的知識を有する
兵庫県教育委員会高校教育課長	倉橋 良太	管理機関

今年度は、年間3回の運営指導委員会を開催した。各委員の専門性を生かして、新学科設置に向けたカリキュラム開発と評価方法、コーディネーターを中心とした校内組織の整備、コンソーシアムの構築や連携、中学校等への周知・広報活動等について支援と助言を受けた。

	開催日	内 容
第1回	7月24日	令和7年度文部科学省「普通科改革支援事業」と本校における今年度の計画
第2回	1月29日	(1) 1・2年生探究学習成果発表会参観

	発表会参観後 開催	(2)次年度「総合的な探究の時間」全体計画について (3)令和7年度の事業報告について (4)令和8年度の事業計画について
第3回	3月 5日 発表会参観後 開催	(1)1年地域科学探究科生”地域と絆“探究発表会参観 (2)次年度「総合的な探究の時間」全体計画について (3)令和7年度の事業報告について (4)令和8年度の事業計画について

⑤ コンソーシアムの体制および取組

所 属	氏 名	主な実績
関西国際大学国際コミュニケーション学部観光学科准教授/ 高大連携室長	前田 哲男	令和5年度～本校「学校運営協議会」 会長
尼崎商工会議所産業部地域振興 グループ課長	養田 茂雄	令和5年度～本校「学校運営協議会」 委員
尼崎市総合政策局中央地域振興 センター中央地域課課長	津田 江美	令和5年度～本校「学校運営協議会」 委員
尼崎市中央地区大物第八社会 福祉協会会長	森 弘	令和5年度～本校「学校運営協議会」 委員
株式会社JTB神戸支店教育旅行 センター教育営業第三課課長	西 雄大	令和5年度～(一社)あまがさき観光 局との協働事業の計画

地域に根差した教育活動が円滑に実施できるよう、コンソーシアムを活用して地域資源（人・モノ・カネ・情報）へ協力や支援を求めた。また、カリキュラムや探究活動についてもコンソーシアム委員会において情報交換をし、地域の様々な資源と繋がる魅力的なカリキュラムづくりへの助言をいただいた。

	開催日	内 容
第1回	5月23日	令和7年度文部科学省「普通科改革支援事業」と本校における今年度の計画
第2回	3月 5日	地域科学探究科の”地域と絆“探究発表会の参観 地域連携・地域協働の在り方について
第3回	3月17日	(1)令和7年度「尼ゼミⅠ」における地域連携・地域協働について (2)地域イベントへの参画について

⑥ コーディネーターの配置および活動内容

	所属	氏名
A	尼崎市立大庄中学校評議員、尼崎市民生委員・児童 委員	松永 和子
B	四天王寺大学教育学部2回生（本校卒業生）	守本 龍人

C	カリキュラム開発専門家	林 保典
---	-------------	------

コーディネーター3名は本校職員とコンソーシアム等、地域の各団体との関係づくり・協働体制づくりと指定事業の円滑な実施に寄与することを期待して委嘱した。各コーディネーターの役割を明確にし、分担と協働によって総じて成果があがることをねらいとした。すべての役割に関わっているコーディネーターAが中心的にコーディネーターの活動を行った。

【役割分担】

- ・学校と地域の様々な人や組織を繋ぐ高校魅力化を推進する協働体制の構築（A）
- ・多様な人の思いを繋ぐビジョンの共創（A・B・C）
- ・学校と地域の協働による事業計画の策定（A）
- ・事業推進のための協議会等の運営（A・C）

指定事業であることから、敢えて意図して選定・委嘱した面もあるが、いずれのコーディネーターも地域連携のコーディネーターとしての経験を有しない。本校としてはコーディネーターの育成もねらいとしており、生徒の活動、各種会議、学校・新学科説明会、学校訪問、職員研修会等に教員と共に行動し参加する機会を意識的に多く設けた。

結果、各コーディネーターがコーディネーターとして果たすべき役割と指定事業内容の理解を深めることができ、指定事業の円滑な実施の一助となった。但し、本校職員や地域の各団体と学校との関係づくりに留まった感は否めず、学校と地域の協働による具体的な事業計画の策定にまでは至らなかった点が次年度に向けての課題である。

⑦ 地域科学探究科の教育課程の検討状況・関係者への説明の実施状況

【地域科学探究科の教育課程の検討】

原則毎週金曜日の2限、担当部署である特色教育推進部のメンバーを中心に担当者会議を開催し、新学科のカリキュラムや特色ある教育活動について検討を行って原案を作成し、教育課程委員会で審議し、職員会議において決定して職員間の共通理解を図った。

【関係者への説明の実施状況】

- ・地域科学探究科のパンフレット（A4版、三つ折り6ページ）の作成、配布
- ・オープン・ハイスクールの複数日開催と地域科学探究科の概要説明
- ・尼崎市内公立高等学校合同説明会での説明
- ・本校ホームページでの広報

説明会	実施日	備考
尼崎市内公立高等学校合同説明会	6月 7日	・地域科学探究科の概要説明
第1回オープン・ハイスクール	6月21日	・地域科学探究科の概要説明、質疑応答
第2回オープン・ハイスクール	9月27日	・地域科学探究科1年による授業実践報告 ・地域科学探究科の概要説明、質疑応答

第3回オープン・ハイスクール	11月15日	・地域科学探究科1年による授業実践報告 ・地域科学探究科の概要説明、質疑応答
----------------	--------	---

本校のホームページ上に地域科学探究科の教育活動を発信するコーナーを設置し、中学生や保護者が普通科新学科への理解が深まるよう広報活動を強化していく。

⑧ 管理機関における事業全体の成果検証、評価

令和4年3月に策定した「県立高等学校教育改革第三次実施計画」において、普通科新学科設置については、「普通科コースからの改編、または発展的統合を行う学校への配置を基本とし、1学年1学級とする」と定めたところである。

県立尼崎高等学校については、普通科教育と絆コースにおいて先進的な取組を行っており、探究活動に特化したカリキュラム開発を先行して進めていた。令和7年度から地域科学探究科が開設され、地域の課題に関心を持ち、課題解決ができる生徒の育成に取り組んでいる。

運営指導委員会等を開催するとともに、コンソーシアム会議にも全て出席し、適宜指導・助言を行っており、地域科学探究科の運営方法や組織体制が整いつつあると評価された。

⑨ 管理機関による支援体制（予算・人員配置等）

令和5年度に整備した探究ルームに加え、複数クラスでの運用を可能にするため、コンピュータ教室Bを新たな探究ルームとして活用し、探究学習での運用を実施している。

普通科改革支援事業が令和7年度末で終了することから、予算、人員等については、高校教育課と協議をしながら実施したい。

⑩ 成果普及のため取組

外部講師による特別講義の実施や探究活動の成果発表を校外会場で行うなど、多角的な取組を展開してきた。また、得られた成果については、本校ホームページやオープン・ハイスクールで紹介し、広く情報発信を行っている。さらに、尼崎市への成果提言においては、担当課を直接訪問し、提言内容が市の施策に反映されるよう、継続的に働きかけを進めている。

⑪ 国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組

（特に予算・人員配置について）

地域科学探究科の教育活動を持続的に発展させるためには、国の指定事業終了後も継続可能な予算の確保および人員配置の工夫が不可欠である。

探究学習の導入段階における課題を踏まえ、外部講師との連携や尼崎市役所とともに支援体制の構築をはかりながら、地域課題に生徒が主体的に向き合う学びを今後も安定的に実施できる仕組みづくりを深めていきたい。

先進校等の事例収集とともに、運営指導委員会での委員の指導・助言やコンソーシアム委員会での委員からの意見・提案、同事業指定校への学校訪問、文部科学省指定校発表会での他校とのグループ協議等が継続的に必要であることを実感した。

(1) コンソーシアムの継続的な連携が続く仕組みづくり

コンソーシアム委員会では、地域科学探究科との連携に係る具体的な提案を各委員に求め、提案にそった探究活動を実施している。今後も地域の各種団体の方々から意見をお聞きし、コンソーシアムとして継続的に連携・協力を得られる仕組みができています。

(2) コーディネーター機能の維持

コーディネーター配置の予算確保が今後困難になることが想定され、コーディネーター機能の教員への移行を必要とする。今後は地域科学探究科コーディネーターによる単独での活動を必要最小限にし、コーディネーターと教員が互いの職務を理解し合いながら地域との連携を進めることが大切である。また、尼崎市への補助事業申請や県教委へのコーディネーター配置の予算要求を求めていくことや、PTA や同窓会に人的応援を求めるなど、多方面に働きかけることが必要である。

Ⅲ 事業の記録

1 今年度の活動内容

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月		・ 地域関係団体との懇談会①
5月		・ 第1回コンソーシアム委員会（学校運営協議会） ・ 職員研修会①（外部講師）
6月		・ 尼崎市内公立高等学校合同説明会 ・ 学科説明会① ・ オープン・ハイスクール①
7月	・ 環境学習①（県立尼崎の森中央緑地） ・ 兵庫県阪神南県民センター「環境フェア」での発表（尼崎市中小企業センター）	
8月	・ フィールドワーク「企業見学・インタビュー」 ・ 業種別職業体験会（尼崎商工会議所） ・ 普通科新学科設置校教員対象研修会①	・ 職員研修会②（校内）
9月	・ 指定校発表会（文部科学省） ・ 大学訪問・特別講義①（関西大学）	・ オープン・ハイスクール② ・ 学科説明会②
10月	・ 「尼崎市民まつり」実習（尼崎市立中央中学校） ・ 小学校実習の模擬授業 ・ 長崎県立松浦高等学校との交流会 ・ 防災学習（北淡震災記念公園、県立淡路高等学校） ・ 普通科新学科設置校教員対象研修会②	
11月	・ 公開授業週間 ・ 小学校での授業実習（尼崎市立金楽寺小学校） ・ 訪問指導 ・ 普通科新学科設置校教員対象研修会③	・ オープン・ハイスクール③ ・ 学科説明会③

1 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究学習中間発表会 ・ 外部講師による特別講義③ ・ 指定校視察①（愛知県立美和高等学校） ・ 指定校視察②（愛知県立惟信高等学校） ・ 高校コーディネーター研修① ・ 普通科新学科設置校教員対象研修会④ 	
1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究学習成果発表会（あましんアルカイックホール・オクト） ・ 第2回運営指導委員会 ・ 尼崎の未来会議（尼崎商工会議所） ・ 伊丹市立伊丹高等学校「伊丹探究フォーラム」での発表（伊丹市立産業振興センター） ・ 高校コーディネーター研修② 	
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尼崎でつながる地域の活動報告会（園田学園大学） ・ 県教育委員会「兵庫県立高等学校探究活動発表会」での発表（神戸市） ・ コーディネーター全国フォーラム 	
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ “地域と絆” 探究発表会 ・ 環境学習②（県立尼崎の森中央緑地） ・ 第3回運営指導委員会 ・ インターピープル（異世代間交流事業） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回コンソーシアム委員会（学校運営協議会） ・ 第3回コンソーシアム委員会（学校運営協議会） ・ 地域関係団体との懇談会②

2 運営指導委員会の記録

1 第1回運営指導委員会

開催日 令和7年7月24日

会場 本校 会議室

参加者

●運営指導委員（順不同）

- ・山田 剛史（関西大学 教授）
- ・佐藤 賢一（京都産業大学 教授）
- ・濱名 陽子（関西国際大学 副学長）
- ・石川 照子（三重大学 教授）
- ・高木 勝久（神戸大学附属中等教育学校 校長）
- ・正岡 茂明（兵庫県立高校 元校長）
- ・安福真理子（尼崎市立中央図書館 館長）

●管理機関

- ・鄒 真砂美（兵庫県教育委員会 高校教育課 主任指導主事）

●本校職員

- ・中野 公雄（教頭）
- ・中井香寿代（特色教育推進部長）
- ・佐藤 司（教育と絆コース長）
- ・井上 雅博（特色教育推進部）
- ・尾花 拓仁（地域科学探究科 担任）
- ・松永 和子（コーディネーター）
- ・林 保典（コーディネーター）

議事録

1. 開会挨拶
中野教頭より
2. 管理機関挨拶
鄒指導主事より
3. 参加者自己紹介
参加者より自己紹介

4. 支援事業の概要説明

中井より

5. 1学期の取組と今後の予定

中井より

6. アンケート結果報告

中井より

7. 地域連携・地域協働について

松永より

8. 質疑応答、指導・助言

各委員から指導・助言をいただく

：（質問）地域科学探究科の生徒の尼崎市内在住と市外在住の割合はどのくらいか。

：40人中6人くらいが尼崎市外からの通学者。

：遠いところと言うと猪名川町在住の生徒がいる。その他西宮市伊丹市から通学している。

普通科の生徒は9割ほどが尼崎在住の生徒であり、大きく割合は変わっていない。

：（質問）生徒に興味のある分野のアンケートをとっていたが、グループ分けはこれからか。

：すでに実施しており、生徒にもグループは提示している。

：（質問）グループ分けをするときに、どのようなことを意識したのか。

：第1希望と第2希望が両方とも一致している生徒同士でグループを作った。グループを作る際に学力順で並べて、3人または4人で1グループとなるようにした。普段の様子から学力差の大きい生徒でグループを作ると下位層の生徒がなにもせずに任せる、あるいは下位層の生徒が意見を言った際に上位層の生徒が遠慮してなにも意見を言わないということがあったので、同じような学力層の生徒でグループを組んでみた。

：（質問）1学年全体に実施したアンケートについて、探究に関することや8つの資質・能力について、事業の対象外の生徒に対して探究に関しての教員からのインプットや意識付けのための時間が新学科の生徒と比べて不足している中でのアンケート実施なのか。

：探究科の生徒も探究に関するインプットが無い状態でアンケートを実施した。

：（質問1）アンケートとして抽出した内容からなにを読み取ろうとしたのか。

（質問2）探究に関する知識がインプットできていない状況で資質・能力に関する質問をそういう想定で尋ねているのか。

：言葉の意味を詳しく説明せずにアンケートに回答させたので、どれくらい生徒が理解して回答できていたかという点では問題があった。探究の授業をすることで提示した8つの資質能力が身につくことを示したくて聞いている。

アンケートを実施して分かったことだが、探究科以外の生徒の中に探究学習のことを地域のことを学ぶことだと認識している者がいて、探究学習は自分たちの勉強することではないと思っているように感じられた。探究学習は地域科学探究科のためにある学習ではなく、すべての生徒に学んで欲しいものであるということを総合的な探究の時間でレクチャーしていく必要がある。

: 4月当初から学校の行事との兼ね合いもあり、当初の計画通り に進められていない状況。総合的な探究の時間の内容を考えなければいけないが、それもうまくできていない状態で1学期が終わってしまった。2学期以降に関しては学年と協力してやっていく予定である。

: 教科書レベルでの従来型のティーチングと並行しながらの作業であり、総合的な探究の時間は従前無かったプログラムを新たに作ったものなので、総合的な探究の時間の進捗によって従来の指導内容にどう影響するか実践しながらになるので、教員がオーバーワークになりかねない。最初から守りの姿勢で取り組むのは良くないが、バランスを取りながらじっくり進めることも大事だと思うので、予定通りに進めていないことは気にしないで良いのでは。

: 新学科初年度から様々な取組みを精力的に実施していてすごいと思った。

(質問1) 8つの資質・能力についてそれぞれを個別にとらえているようなイメージがあったが、それぞれの関連性をどのようにとらえているのか。

(質問2) 評価について、生徒に対しての評価方法と学校が受ける評価の評価方法が現時点でどれくらい形作られているか。

(質問3) 教員の働き方改革の視点からどのような工夫がなされているか。

(質問4) 新学科の取組に教員がどれくらい一体感を持って取り組んでいるか。

: (質問1について) 8つの資質・能力は関連しているものであると認識している。探究の問いを立てることから発表までを見通して計画を立てることができているか、問いを立てた後の情報収集をするために様々なイベントに参加したりフィールドワークを含めて様々なことを実践する力が身についているか、地域の方とのコミュニケーション力を含めた協働力が身についているか、その他情報収集力や思考力、振り返る力などが必要。発表する際には、発表原稿を作ったり言語能力などが必要になってくる。1学期の評価をする中で3観点にうまく置き換わらないところがあり、生徒の自己評価も含めるべきだった。ルーブリックのようなものを作って可視化できれば生徒にとっても良いと感じた。

(質問2について) 生徒の評価について、計画的にできていない状況。毎時間振り返りシートを用いて記述させたり、制作物を使って5段階で評価していた。8つの資質・能力とかが合っていないところが課題としてある。

(質問3について) 3名のコーディネーターが対外的な計画などサポートしており助かっている。教員だけでなんとかしないといけない状況にはないことが大きい。来年度文部科学省の事業が終了した際にコーディネーターがそのまま維持できるかが課題であると感じている。

(質問4について) 尼ゼミの担当教員が4人で、現状授業内容の周知が1学年にしかできていない。夏休み中の職員会議で職員全体への周知を行う予定である。新学科の生徒以外への周知はまだ行えていない。

- : 素晴らしい取組がされはじめたと感じているので、持続可能な範囲でやってもらえたら。
- : 働き方改革について、一番時間を割かれるのが外部との折衝。また、夏休みにおける地域のお祭りなどは土日開催が多く、参加する教員に代休を取るよう呼びかけることくらいしかできていない。
一体感について、若手の教員は柔軟に考え取り組めるが、ベテランの教員は新しいことに対して抵抗感があるので、研修を重ねていく必要がある。
- : 歴史に関して、学校探検の際に振り返りシートに記載のある生徒が数人いたので、興味のある生徒がいれば案内できるのでつないでいただけたら。
地域とのつながりや歴史を大切にする姿勢がずっと続いてきていてうれしい。
- : 年間予定を見ている限りでは予定が詰まっており、教員がレールを敷いて子どもが乗っている感じがしたが、報告を聞き、自由度があると感じた。横のつながりについて、成果発表会と一緒に実施すると思うがその他の機会でも交流があると1クラスだけ新学科のクラスがある意味が出てくると思う。地域探究を行っている他の高校との交流があったり、防災学習をするのであれば、淡路高校では防災の学校設定科目があり、地域の方に話を聞き震災の体験を伝えていく活動を行っているので、交流を行ってみるのも良い。三重の津高校では中学生に科学探究を行うことをしているが、他校も同日開催でオンラインでつないで実施している。校内の横のつながりだけでなく他校との横のつながりがあれば、生徒たちは教員が期待した以上の成果を上げるのではないかと思う。
- : 旧課程も残っている中で、前にあるものと新しいものをブレンドさせていくのは大変。報告に使用したスライドなどの資料が紙ベースで手元にあるとありがたい。過去の運営指導委員会で指導・助言した内容に対するアンサーとなる資料があれば、資料を元に委員会で議論できるのでつけて欲しい。教員がレールを敷いていることに対するアンサーは一部あったが、まだ生徒が前に出てくる感じが見えない。この事業を通して大事なのは生徒の学びと成長であると考えているので、生徒が3年後どういう姿をしているのかを見ていくのが我々の仕事。写真から生徒の様子はうかがい知れるが、生徒の学びと成長をもっと解像度を上げていかなければいけない。アンケートに関して、アウトカムは育てたいものではなく生徒の考え方なので、身につけられたかという視点が必要。3年後にどのような力を身につけてほしいのかという点が十分に熟成できていない。すなわち身につけたいと思っている数値をあげることがどのような意味を持っているのか。重要なのは身につけたいと思っている生徒を増やすことではなく、身につけられた生徒を増やすこと。資質・能力の育成は重要であるので教員が考える8つの資質・能力が身につけているかを確認していかなければならない。学力層でグループ分けをしたことについても、資質・能力の育成にどのような意味があるのかを意識しながら実施した方が良い。
- : 教員の中には探究学習がどういうことか過去の経験が無い中で当事者意識がやや欠けている人がいる。生徒に分からない形で短期間での探究を実施することを強くおすすめする。

9. 閉会挨拶 中野教頭より

2 第2回運営指導委員会

開催日 令和8年1月29日

場 所 尼崎市総合文化センター 第4会議室

参加者

●運営指導委員（順不同）

- ・山田 剛史（関西大学 教授）
- ・濱名 陽子（関西国際大学 副学長）
- ・石川 照子（三重大学 教授）
- ・高木 勝久（神戸大学附属中等教育学校 校長）
- ・小野 義直（株式会社アンド 代表取締役）
- ・正岡 茂明（兵庫県立高校 元校長）

●管理機関

- ・鄒 真砂美（兵庫県教育委員会 高校教育課 主任指導主事）

●本校職員

- ・松本 敏尚（校長）
- ・中野 公雄（教頭）
- ・中井香寿代（特色教育推進部長）
- ・井上 雅博（特色教育推進部）
- ・細田みどり（特色教育推進部）
- ・大矢 浩子（2学年副主任）
- ・尾花 拓仁（地域科学探究科 担任）
- ・松永 和子（コーディネーター）
- ・林 保典（コーディネーター）

1. 開会挨拶

松本校長より

2. 管理機関挨拶

高校教育課 高校教育改革班 鄒主任指導主事より

3. 参加者自己紹介

時間の都合により割愛

4. 今年度の取り組み

中井より尼ゼミおよび1学年セルフ=ナビの説明

大矢より2学年セルフ=ナビの説明

5. 質疑応答、指導・助言

各委員から指導・助言をいただく

: 2年生の発表は良かった。学級の空気を最近の研究対象としており、教室の空気感が探究をする空気になっているかどうか重要。探究中の様子を見ることはできていないが、今日壇上に上がった生徒たちの発表は良かった。探究をする空気感を作る上で大事なのは生徒同士の関係性の構築、生徒と教員との関係性の構築である。学校によっては締め付けが強くいびつな空気ができあがり自由な探究ができなくなる。教員が探究のテーマを面白い面白くないと判断するのではなく、テーマをどう深めていくかというところの伴走支援がとても大事。教員は生徒が自立的に探究に向かう空気づくりに徹するか、途中経過にAIを使うにしても、最終的には生徒自身の「やりたい」につなげられるように手助けするか。コスパ、タイパを上げていくのは難しいが、今日の空気感を1年生が受け取って2年生へとつなげて、3年生に送って行ってほしい。来年度文部科学省の補助事業から外れるので、評価の仕方などを気にせず思いきりやっていけたら良いのでは。

(質問) 実際の空気感はどうか。

: 生徒は楽しんでやっていると思う。去年は原稿を読むことを重視して指導していたが、山田先生のアドバイスもあり、今年は観客を巻き込むことを意識してやっていた。クラス内での発表を経て今日の発表を迎えたが、クラス内発表後に内容をブラッシュアップしていたので想定よりも発表時間が長くなった。他人の発表を見ることがいかに大事か痛感した。

: 他校の様子を見ていると、発表した内容について踏み込んだフィードバックができていなかったり、自分の発表に突っ込まれたくないので距離を作ってしまう表層的なフィードバックになってしまうので、本校は良い生徒が集まっていると感じた。3割くらい熱心に取り組む生徒がいれば空気も変わってくる。去年は時間を知らせるベルをならしていたが、今年はベルをならさずに生徒が話したいことを最後まで話しており、まだまだ伝えたいという熱量が伝わってきた

: 地域科学探究科の発表は12月の中間発表の際に見たが、それ以外の生徒の発表について、2年生の生徒の発表が1年生の時に比べてこんなに成長するものかと感心した。1年生の発表は「～について調べました」が多く、2年生の発表は「～について探究しました」となっており、探究が定着していると感じ、発表自体も2年生の方が面白かった。探究は身近にあるテーマから選んで取りかかれば良い。将来就職するにしても進学するにしても学問につながっていくものであるので、学校現場で指導していくことはとても大事。

強いて改善点を挙げるとすれば、2年生の発表の中で出てきた仮説が本当に仮説なのか疑わしい人がいた。仮説は変数と変数の関係を示したものはずである。

(質問) リサーチクエストは厳密に区別しない方が良いのか。

: 従来の探究のスパイラルは仮説を立てて検証していくものであるが、最近はこのスパイラルが正しいのか疑問に思っており、分からないから飛び込んでいくトリッキーな探究があっても良いと思っている。仮説検証型や仮説生成型の研究のような型にはまったものでは

なく、型にこだわらずに探究をしていくことも大事だと個人的には思っている。石川：2年生の生徒と1年生の生徒の発表に違いを感じることができた。1年生は「SDGsと私」というテーマでの発表であったが、クラス内から選抜されていたにしても、「私」に近づいておらず物足りなさを感じた。「私たちにできること」などよくある常識的な部分にとどまっており、その先に踏み込んだものがあったのではないかと思う。例えばエシカル消費が良いことであることは分かっているが、それがなぜできないのかという部分に突っ込んでいけたら「SDGsと私」につながっていくと思う。1年生はまだまだ探究する力は弱いので、教員が突っ込んだ質問をしていくことで次の段階に進んでいけると思う。今回は深く掘り下げることができていなかったのが表層的になってしまった。地域科学探究科の生徒は地域の人と出会うことを大事にするべき。川清掃の話でいえば、なんのために美しい川を取り戻すために活動しているのか、途中で中断しようと思ったことはないのかということを知りたいは向き合うことが地域科学探究科の生徒には大事。2年生は自分自身が疑問に思うことを探究しており、1年生と比べてアンケートなどの調査をした結果、次の疑問が生まれていたことが特徴的だった。

：1年生が2年生に進級したときに今と同じテーマで探究する生徒がどれだけいるか興味がある。同じテーマでやる生徒があまりいなければ私事だから探究したのではなく課題だから仕方なく探究したということになる。1年生の発表は「私」との関係性が見えにくかった。提案するだけで発表が終わっていたので実際に自分でやってみて検証すれば良かった。

：スラムの発表をした生徒は実際に現場に行って写真を撮るなど行動ができていたので、その部分は賞賛されるべき点。一方で聴衆の中に保護者がいるという中で「日本のスラム化しそうな場所に行ってみてください」ということが適切なのか、あるいは現地の写真の選定基準がどうであったのかなど、どのように指導していくべきなのか考えさせられた。尼ゼミのゴミの発表をした班について一定の結論は出ていたが、ゴミ箱に入ったゴミの行方やポイ捨てをした人の行動規範など次の話につながるような糸口はたくさんあった。来年度どのようになるか分からないが、ゴミの発表をした班は自分たちで良い題材を見つけたのだと感じた。神戸大附属でも代表に選ばれた生徒だけでプレゼンテーションを行い、そこで刺激を受けて内容がブラッシュアップされ予定していた発表時間を過ぎることがある。神戸大附属では時間を超過するとベルを鳴らすのが、本校ではベルを鳴らさない分、思う存分プレゼンできていたのが見て取れた。もっと踏み込めば生徒の学びになることはあるが、年間スケジュールの都合でなかなか難しいのかなと感じた。

：1人1探究をするのは大変だがとても良いと感じた。学校によってめざすべき探究のありたい姿は違うが、個性がありほほえましく見ていた。1、2年生合同で成果発表をやったことは先輩の発表を見て自分の現在地の確認と1年後の目標地ができ、生徒間で学び合うことで目標設定がしやすくなるので良い。1年生は1次データの引用で終わっているが、2年生の発表を聞いてきちんと成長していることが分かったので、ファーストステップとして探究に触れてみることは良いと感じた。今日の発表を終わった後に新たな問いを立てたり、2年生の発表を聞いてできていなかったところを振り返ったりすることで、自らの学びにつながったり次年度に向けての一步につながっていくと思う。発表が終わったことで

開放感でいっぱいになると思うが、開放感の後にどのような振り返りをしていくのかが大事。尼ゼミの発表は地域の方と協力してやれたら理想的であるが、言って終わりではなくその後の自分たちで実際に行動してみることに目標設定をすることで、1、2年生あるいは地域科学探究科の生徒で異なる探究のゴールをめざして、次の目標設定が見えるのを学校全体として取り組んでいけたら良い。1人1探究をするのは大変だけど素晴らしいことであるし、身近なテーマでやるのが日々生きていく上で自ら考え行動していくことにつながっていくと思う。学術的なことよりも生きることを大切にしたい探究とは何かということのひとつの姿なのかなと思った。

: 自分自身が校長をしていた頃にあったセルフ=ナビやインターピープルが残っていることが素晴らしい。1人1人が様々な探究のテーマを決めて考えてやっているのを見て、そこが上がっていると感じた。十年ほど前も素晴らしい発表をする生徒はいたが、全体としてレベルは上がっている。テーマ設定も尼崎の子らしく明るく茶目っ気がある部分があり、ただ笑わせるだけでなく学問的な部分をベースにしながら伸ばせたら本校らしさが出るのでは。発表の中で地名の呼び方を誤っていたので、誰かがサポートしてあげられたら良かった。

: 2年生の発表を見た感想として、自分が言いたいことを言っていたので、表情や声色に「言いたい」というニュアンスが出ていた。聴衆としても聞きたいと思わせる発表であった。1年生は「言わなければならないから言う」感じが出ており、教員側が「発表とはこうあるべき」や「探究の成果としてこういうのが欲しい」という方に寄せようと指導していた。もっと生徒発信のやりたことや疑問の声をそのまま発表につなげられると、もっと楽しそうな発表にできるのでは。来年度以降に向けて、生徒への関わり方や伴走の仕方など工夫していきたい。

6. 閉会あいさつ 松本校長より

3 コンソーシアム委員会の記録

1 第1回コンソーシアム委員会

開催日 令和7年5月23日

会場 本校 会議室

参加者

●コンソーシアム委員（順不同）

- ・前田 哲男 (関西国際大学 准教授)
- ・養田 茂雄 (尼崎商工会議所産業部 地域振興グループ 課長)
- ・津田 江美 (尼崎市総合政策局 中央地域振興センター
中央地域課 課長)
- ・森 弘 (大物第八社会福祉協会 会長)
- ・上野雄一郎 (株式会社 JTB 神戸支店 教育旅行センター
センター長)

●管理機関

- ・長坂 賢司 (兵庫県教育委員会 高校教育課 班長)

●本校職員

- ・松本 敏尚 (校長)
- ・中野 公雄 (教頭)
- ・中井香寿代 (特色教育推進部長)
- ・細田みどり (特色教育推進部)
- ・松永 和子 (コーディネーター)
- ・林 保典 (コーディネーター)

議事録

1. 開会あいさつ

松本校長より

2. 管理機関あいさつ

長坂班長より

3. 参加者紹介

各参加者から自己紹介

:1年間探究のことについて勉強してきたが、どのように本校教員に伝えていけば良いか模

索している。

- : 英語を教える傍ら高大連携の仕事もしている。
- : 企業と連携できるような事業があればお手伝い出来れば。
- : 地域で活動している方と地域振興での協働や、生涯学習プラザでの講座やイベントを展開している。
- : 酒屋とたばこ屋を営んでいるが、コンソーシアム委員会の中でどのような役割を果たしていけるか、津田課長からも指導をいただいている。
- : あまがさき観光局が実施しているあま探の事務局の運営をしている。これから尼崎市をどうやって盛り上げたら良いかと言う観点でお手伝いできたら。
- : 令和4年度までPTAで関わっていて、子どもの卒業後にコーディネーターとして声がかかった。教員とは違う保護者目線で、生徒が社会に出るにあたってプラスになるような力添えが出来れば。
- : 昨年までは1年の担任。総合学習で尼崎のことを知るということで生徒に調べさせて、発表させることをさせていた。探究学習についてはまだまだ知らないことも多い。
- : 本校の特色のある取組みの充実をめざしてがんばっていききたい。

4. 支援事業の概要説明

中井より

5. 1学期の取組と今後の予定

中井より

6. アンケート結果報告

中井より

7. 地域連携・地域協働について

松永より

8. 質疑応答、指導・助言

各委員より意見をいただく

: 昨年度からコンソーシアム委員会に参加しているが、具体的に計画的に動き始めていると感じた。昨年度は手探り状態であったが、生徒が入学してきて、具体的に動いていると感じた。

地域連携の形での探究の学びは全国的に実施されていて、比較的少子化の厳しい地域で使われることが多い。本校の地域探究は尼崎という人口の多いところでの地域連携のパイオニア的な学びを実施して欲しい。

地域科学探究科が教育と絆類型の流れから来ているので、教育と絡めた地域連携をひとつの特色としていけば、他の学校との差別化が図れると思っている。

意識調査は難しいところがあり、学ばば学ぶほど自分に対する要求度が上がってくる。運営指導委員会に関わった学校でも同様の傾向があり、探究の学びを積み重ねれば積み重ね

るほどだんだん自分に厳しくなり、年を追うごとに自分のやっていることに対する評価が上がるとは限らない。意識調査は毎年実施して比較検討していかなければいけないが、それとは別に自分自身が数ヶ月の間に何をしたのか、なにが出来たようになったのかをポートフォリオ的に記録していくようなものがあれば成果の指標として学科の学びをまとめる段階で振り返っていけるのでは。

：（要望）なぜ地域科学探究科を選んだのかという生徒の意見が聞きたい。

地域探究は実施して何かしらの見える形での結果が出にくいので、評価方法は重要になってくる。地域懇談会においてサマーセミナー等に参加してはどうかという意見があったという話だが、実地学習は重要で、実際に現地に行ってみて分かる部分もあると思うので積極的に行ってみるべきだと思う。商工会議所では企業や地域とのイベントを様々実施しているので、見に来てもらっても良いし、生徒が参加型の形でやっても良いので連携していければ。

5月8日に外部講師として尼ゼミに行ったが、生徒の学ぶ意欲が強いと感じた。

：アンケート調査がとても良いと感じた。地域科学探究科を選んで入ってきた生徒なだけあって探究したいテーマが具体的に挙げられていた。2学期後半からテーマを決めてグループで探究を行っていくという話だが、市の関係部署や地域団体につなぐことがあればお手伝いできる。

先日、都市政策課が尼ゼミで授業をしたのを初めて見たが、生徒が集中して熱心に授業を聞いているのを見て感動した。2学期以降も外部講師を呼ぶことがあると思うが、関係部署とつながせてもらえたら。

：地域連携と地域協働について、5月21日に実施された地域懇談会の詳細を知りたい。

：観光地経営の観点であればお手伝いできるかと思う。旅行会社は当初は尼崎発で様々なところにお送りするという仕事をしていたが、今は地域のことを詳しくなろうということはどうやったら観光してくれる人が増えるかを考えて、行政と一緒によりよいまちづくりの観点の仕事をコロナ禍後はしている。どのようにまちを盛り上げていくのか、明るくしていくのかというところを着地のプログラムを作りながら協力できる。

尼崎市のを中心に話をしていたが、神戸観光局とも協働しており、例えば近隣の町との地域活性化の比較を実施した際にお手伝いできればと思う。

：なぜ地域探究科を選んだのかということについては、アンケートを実施しており次回の会議で提示したい。地域懇談会の資料はメンバーも次回提示できれば。

9. 閉会あいさつ

松本校長より

4 アンケート調査

1 探究に関するアンケート調査

(1) 実施目的 本事業の「目的設定シート」の成果目標に関連する質問を行い今年度の取組の成果を検証する。

(2) 対象生徒 本事業対象生徒 : 1年6組(地域科学探究科) 40名
 本事業対象外生徒 : 1年1組～5組(普通科) 200名

(3) 調査方法 5月(事業開始前)と2月(事業終了期)の2回、対象生徒にはほぼ同じ質問を行い、数値の変化を比較する。

(4) 回答方法

4	思う	3	わりと思う	2	あまり思わない	1	思わない
---	----	---	-------	---	---------	---	------

(5) 質問項目と調査結果

質問項目	昨年度	対象外 (普通科)	対象 (地域科学探究科)
Q1. 「探究」の授業に興味がありますか。	2. 8⇒2. 9	2. 2⇒2. 8	3. 4⇒3. 3
Q2. 高校の授業で「探究」を行うことは重要であると考えますか。	3. 3⇒3. 4	2. 6⇒2. 9 76.7%	3. 4⇒3. 5 94.7%
Q3. 「探究」の授業で次の各資質・能力を身に付けたいですか。 ⇒次の各資質・能力は向上したか。			
①目標設定力(計画力)	3. 0⇒3. 2	2. 9⇒2. 8	3. 6⇒3. 2
②思考力	3. 0⇒3. 0	2. 8⇒2. 9	3. 5⇒3. 2
③自己表現力	3. 4⇒3. 5	3. 0⇒2. 8	3. 5⇒3. 2
④実践力・実行力	3. 3⇒3. 3	3. 0⇒2. 9	3. 5⇒3. 2
⑤協働する力	3. 3⇒3. 1	2. 9⇒2. 9	3. 6⇒3. 3
⑥当事者意識(主体性)	3. 1⇒3. 1	2. 8⇒2. 9	3. 4⇒3. 2
⑦振り返る力(メタ認知)	3. 3⇒3. 2	2. 8⇒2. 9	3. 3⇒3. 2
⑧広い視野	3. 3⇒3. 3	3. 1⇒3. 0	3. 6⇒3. 2

Q4. 「探究」とは、どのような学習活動なのか説明してください。

A. 対象外200名中の一部回答(5月)

① 自ら課題を設定して解決に向けて情報を収集したり分析し、意見交換や協働を通して学ぶ活動
② 自分で課題を見つけてそれを解決するために情報を集めたり、まとめて表現する学習活動。
③ 自分で課題を設定し情報を集め整理すること
④ 色々な物事について考える活動

- ⑤ 分かりません
- ⑥ 一つのことに対して深く調べ
- ⑦ 思考力を高め、協働する為に色々な事を学ぶ活動
- ⑧ 自分で課題を見つけて自分で情報を分析する学習活動だと思います。
- ⑨ 本当のことを突き止めること
- ⑩ わからん
- ⑪ 自分で課題をみつけて調べていくこと
- ⑫ 1つの物事について詳しく考えたり、学んだりすること
- ⑬ 自分で物事を調べ、研究し、まとめたり自分の意見を言ったりすること
- ⑭ 物事を深く探求すること
- ⑮ 調べたい事をたくさん調べる
- ⑯ 自分の力で、様々な視点から物事を調べ、他の人に調べたことについて話し合うことだと思う
- ⑰ 自らが課題を設定し情報を収集・整理・分析し、解決策を検討し発表する学習活動
- ⑱ 物事を学び理解できるようにする
- ⑲ みんなで協力して答えを見つけ出す活動
- ⑳ わからない
- ㉑ 日頃、疑問に思っていることや分からないことなど、興味のあることについてより深く理解し、それを皆で共有しあう。そして、新たな発見に繋げ、またそこから新たな探究へと深めていく活動だと思います。それを繰り返すことでこれからの人生におけるヒントにもなるもの
- ㉒ わからない
- ㉓ 物事を学び理解できるようにする
- ㉔ 目標達成目指したりすること
- ㉕ 自分で課題を見つけそれを解決するために分析したり意見交換しながら進める学習
- ㉖ 色々なことに関わって自分の考えを深める
- ㉗ 物事を実際に調べて明らかにすること
- ㉘ 探して研究する
- ㉙ 自分からしたり広い視野を持って振り返ったり目標を明確にたてる活動だと思う
- ㉚ 自分を俯瞰的に振り返るなど、普通に生活していてあまりしない事をする活動
- ㉛ 自分の考えを深める時間
- ㉜ より深く知る
- ㉝ 物事の真実を探りそれを理解する活動
- ㉞ 自分が分からないことを分かるまで探し続けることが学習活動だと思います
- ㉟ 問題に対してよく考えること
- ㊱ 自ら問いをたて、それに対して情報を収集、整理、分析したり、周囲の人と意見交換、協働しながら答えを見つけ出していく活動。
- ㊲ 自分の意思で問を立て、解決するために情報などを集めること。

A. 対象外200名中の一部回答(2月)

- ① なぜなのか、どうしてなのかを調べてそれについてのあり方を考えること
- ② 周りとは話し合い考えを深め合う活動

- ③ 調べ、まとめて、追求すること
- ④ 今を知る
- ⑤ 不思議を知ること。
- ⑥ 今まで知らなかったことや知りたかったものを深掘りすること
- ⑦ 調べて自分はどうか考えも書くこと
- ⑧ テーマに沿って詳しく調べて課題解決に取り組む学習活動
- ⑨ 自分自信で問いを考え、その答えを見つけるために調べたりする活動。
- ⑩ 世の中を知ること
- ⑪ 深く追い求める行為
- ⑫ 探究とは、自分自身が疑問に思ったことや関心のあるテーマについて、情報収集や調査、考察を行い、自分なりの答えや考えを導き出していく学習活動です。答えが一つに決まっていない課題に取り組むことで、思考力や表現力、主体的に学ぶ力を高めることができます。
- ⑬ みんなの意見を聞いて自分の意見を考える授業
- ⑭ 自分の調べたいと思うものを調べて発表すること
- ⑮ 今の置かれている世界の状況を知ること
- ⑯ 自分でテーマを決めてそれについて色々調べて発表すること
- ⑰ 自ら問いを立て、情報収集や分析を通して、正解のない課題に対して自分なりの解決策や考えを導き出す学習活動のことです。
身近な疑問や社会課題（SDGs など）について深く掘り下げ、他者と協力しながら多角的な視点で理解を深めていく活動です。
- ⑱ 自分で考える力を身につけること
- ⑲ 個人でなく団体に活動をして絆を深める活動
- ⑳ 知らないことを調べること

A. 対象40名の回答(5月)

- ① 自分の知りたいことを見つけ正解を自分で導き出すこと
- ② 自分の気になることを見つけその解決策を出しやってみるのが探究です
- ③ 地域などの課題や目標を仲間達と考え共に解決策などを考える過程だとも思います。
- ④ 身の回りの事を知ると同時に自分のことも知れる活動
- ⑤ 自分の疑問を解決するため自分で取り組み、学をつけること
- ⑥ 自ら課題を見つけ、解決し、新たな発見を探す、をループすること
- ⑦ 自ら問題や課題を見つけ出し、それを1人もしくは複数人で解決策を考え共有すること
- ⑧ 一つのことを調べ、本質などを捉えること
- ⑨ 人としての大切なことを知るための活動
- ⑩ 探求は自分自身が持った知識とスキルを活かし、自分のことをもっと深掘りする活動です
- ⑪ 目標に向けて色々なことを試し、試行錯誤すること
- ⑫ 自分で課題を見つけて取り組むこと
- ⑬ 自分で課題を立てて、考えたり実験をして自分なりに答えを出すこと。
- ⑭ 自ら問いを立てて、情報を集め、話し合い、その問題を解決すること
- ⑮ 自分で課題を見つけてそれを解決していくことだと思います。
- ⑯ 問題を自分で見つけ他者の意見をふまえて自分の意見を広げる

- ⑰ 地域の課題を見つけて解決すること
- ⑱ 自分を知ること
- ⑲ 自分で立てた目標や疑問を自分で調べたり考えたりして、答えを見つけていく学習活動
- ⑳ 尼崎のことを聞いて聞いた上で自分たちに何ができるかを考える授業
- ㉑ 自ら課題を見つけそれを解決するために探究していくこと。
- ㉒ 自分で計画して見つけ出すこと
- ㉓ 自分で課題を見つけてそれを解決する活動
- ㉔ 尼崎のことを探究して深く知る
- ㉕ 自分の気になるテーマを見つけて、自分なりに研究していくこと
- ㉖ 一つの物事をみんなで突きつめていくこと。
- ㉗ 自分が興味を持ったものを深く追求する
- ㉘ 一つのことを追及して自分の答えを見つけること
- ㉙ 自分達で課題を見つけ改善策を考えそれに向かってグループで話し合い実行すること
- ㉚ 分からないことを自力で考えたり友達と考えたりして色々なことを思考して行く
- ㉛ 平面的ではなく立体的に物事を捉えて様々な考えをもって実践すること
- ㉜ 自分で課題を見つけて調べる
- ㉝ 自発的に問題を解決すること
- ㉞ 仲間とその話題を深めていくことだと思います
- ㉟ 興味を持ったものや日常生活の中で疑問に思うことを課題として解決して行くために人に聞いたり自分から調べたりすること
- ㊱ ひとつのことについてグループで話し合いをし、理解する学習活動だと思います。
- ㊲ みんなで深く研究ふるこの
- ㊳ 気になることを深く研究することだと思います
- ㊴ 設定した目標を自ら深く掘り下げて学ぶことだとおもいます。

A. 対象40名の回答(2月)

- 1 自分の知りたいと思う分野について答えが出るまで調べること。
- ② 気になることを深く調べ、まとめて発表すること
- ③ 自分や班で疑問を見つけて、調べたり考えたりしながら答えを見つけていくこと
- ④ 自分で思った疑問などを解決すると同時に自分自身のことについて知る活動
- ⑤ 単なる調べ学習ではなくさまざまな分野から仮説や問いを立てて複数の方法で深掘りする。
- ⑥ 一つのテーマに対して深掘りし、さらに新しい発見や課題を見つけていく無限ループ
- ⑦ 1人だけでなく地域の人や学校内の人とも協働に色々な課題や探究テーマを追求したりすることです。
- ⑧ 問いを立てその問いに対しての情報を集め結論をだす
- ⑨ 他人と考えを共有できる活動
- ⑩ 探究は答えがいくつもあって、自分の中にある知識を活用したり、問題を解決する能力がつく活動
- ⑪ 一つの物事について問いや仮説を立て、情報を集めたり、グループでの話し合いや調査などを通して、答えを導き出していくこと
- ⑫ 自分で課題を見つけて取り組むこと
- ⑬ 疑問、問いを見つけて探究する

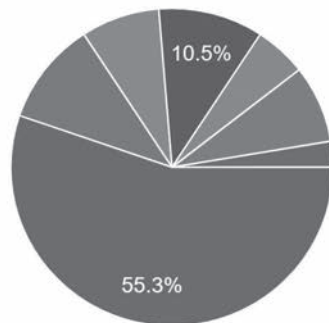
- ⑭ 自ら問い立てて、情報収集や分析をして結論を出し、表現すること
- ⑮ 疑問に思ったこと自分でもそうだしクラスのみんなで学んで行くことだと思います
- ⑯ 物事の真相や本質、価値などを深く考え、筋道を立てること
- ⑰ 地域について調べる
- ⑱ 自分で問いを見つけ、その答えを主体的に考え、調べ、まとめていく学習活動のこと
- ⑲ 自分で興味のある分野から問いを設定して、その課題解決にむけ、情報をあつめたりする。つまり、自分で問いや解決方法を見つける学習活動だと思います。
- ⑳ 探究とは自分で疑問や課題を見つけたり、考えたりしてその答えを調べたり考えたりしながら自分の知識を高めて行ったり深く学んでいく学習のことです。
- ㉑ 自分で課題を見つけそれを解決していく活動
- ㉒ 周りを巻き込んで一つの課題を深く考えること
- ㉔ 目標に向かって自分たちで探求して答えを見つける活動
- ㉕ 自分達で目標を立てて研究していくこと。
- ㉖ 探究とは、1人で行うものでもあるけれど班員や手伝ってくれる人と共に、問いについて真剣に向き合って解決に至ることだと思います
- ㉗ 自分の学びたいテーマを深く掘り下げること
- ㉘ 自分の身の回りにあるものを追求し、深めていくもの
- ㉙ 自分で問いを見つけ、自分で調べ、考え、まとめる学習
- ㉚ わからないことの仮定をたててそれを調べること。
- ㉛ 自分から広い視点で興味や疑問を持ちそれを実践しさらに自分で振り返り噛み砕いて表現していく。
- ㉜ 調べ学習ではなく実践するのが探究だと思う
- ㉝ 自分たちで課題を決めてそれを深めていくこと？
- ㉞ 個人やグループで気になったことを課題として解決に近づけられようとするためいろんな手段で調べたらまとめたりすることだと思います。
- ㉟ テーマに対してそのことについて詳しく調べて、発表する
- ㊱ みんなで深く色々なことを調べたり、まとめること。
- ㊲ 一つのことを深く調べること
- ㊳ 設定した課題を解決するために情報を集めてまとめ、それを表現する活動。
- ㊴ 自ら問いを立てて解決にむけて学習すること

2 探究テーマに関するアンケート調査①

(1)対象生徒 本事業対象生徒 : 1年6組(地域科学探究科)40名 回答数 40名

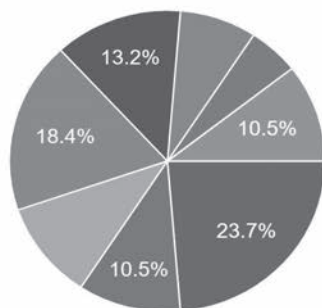
(2)質問項目と調査結果

Q1 高校3年間を見通して、現在の時点で、どの...テーマで探究活動をしたいですか。【第1希望】
38件の回答



- 教育 (子どもの貧困、教育課題 などの について)
- 福祉 (高齢者と介護、健康、バリア...
- 産業 (特産品で商店街を活性化、企...
- 行政 (子育て世帯が住みやすい街づ...
- 歴史 (尼崎城、尼崎藩、尼崎の成り...
- 文化 (民話の伝承、方言、郷土料理...
- 環境 (都市に森を再生、生物多様性...
- 防災 (阪神大震災を風化させない、...
- 心理

Q1 高校3年間を見通して、現在の時点で、どの...テーマで探究活動をしたいですか。【第2希望】
38件の回答



- 教育 (子どもの貧困、教育課題 などの について)
- 福祉 (高齢者と介護、健康、バリアフ...
- 産業 (特産品で商店街を活性化、企...
- 行政 (子育て世帯が住みやすい街づ...
- 歴史 (尼崎城、尼崎藩、尼崎の成り...
- 文化 (民話の伝承、方言、郷土料理...
- 環境 (都市に森を再生、生物多様性...
- 防災 (阪神大震災を風化させない、...

Q2 より具体的に探究してみたいテーマがあれば記入してください。

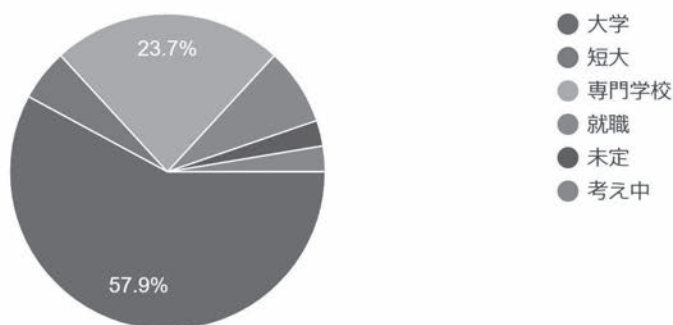
教育分野	・子どもの貧困・保育園や手話について・世界の子どもたちの詳細・教育環境について ・保育園や幼稚園・幼稚園などの労働環境の問題について・少子高齢化社会の課題
福祉分野	・障害などを抱えた人をサポートするには
産業分野	・商店街の復興
行政分野	・何をすればより良い町ができるのか・尼崎はなぜ地面がガタガタなのか・学校につ
歴史分野	・尼崎城の成り立ち・戦争時の尼崎・尼崎市の歴史
文化分野	・尼崎の有名な場所・娯楽
環境分野	・町に落ちているごみ
その他	・人間の心理

Q6 尼崎について興味を持っているところはどこですか。（場所・事柄・施設・人物など）

- ・外国人・歴史(4)・尼崎城(4)・土地・田能遺跡・ゼロカーボンベースボールパーク(2)
- ・尼崎の森・運河・住みやすい街・浄水場・商店街・キューズモール(2)・高齢者
- ・イベント・アクセスの良さ(2)・人の温かさ・近松門左衛門・治安・子どもについて

Q8 現在考えている高校卒業後の進路を教えてください。

38件の回答



Q10 将来どのような形で尼崎（又は住んでいる所）と関わっていきたいと考えていますか。

- ・身近な存在としてまもっていききたい
- ・尼崎で働く事で尼崎と関わっていききたい
- ・みんなから愛されて不満の声が少ない
- ・今、尼崎は保育士さんが減ってきているので、できるだけ尼崎の保育士さんになりたいです
- ・養護教諭になって健康で元気な子供達を教育し、尼崎により貢献できる人材を育てていきたい
- ・地域の祭りやボランティア活動を積極的に参加したい
- ・尼崎を支える形で関わっていききたい
- ・たくさんの思い出の場所にする
- ・自然と触れ合う、衰えないように美化活動に取り組みたい
- ・近所の人と会話をしたり、地域のイベントやボランティアに積極的に参加するなどし、人との繋がりを深めたい
- ・自分が生まれ育った尼崎で何か仕事をしたい
- ・保育園の先生
- ・たくさんの人に尼崎の魅力を伝える
- ・その魅力を子供達に教えていきたい
- ・周りの人と仲良く元気で関わる
- ・尼崎が少しでも住みやすい所になるように綺麗に保っていききたい
- ・将来の夢の幼稚園の先生にもしなれたとするなら、地域の未来を支える子供たちを育てるという形で尼崎を支えたいと思います。市役所の職員になれたとしたら市の大事な役所に就き、地域の方の生活を支えたり、いいまちづくりをしていきたいと思います。
- ・他県などから尼崎に来たいと思えるような街にしたい
- ・お返しをしていきたい
- ・尼崎市の事についてもっと詳しく知り、尼崎市を良くしていきたい
- ・地域科学探究科で学んだことを活かしていきたい
- ・町おこしをしていく形
- ・街を見つめ直してこの街をよりよくしていきたい
- ・高校で尼崎の良さを勉強して尼崎出身以外の人に伝える
- ・ボランティア活動とかに参加すること
- ・表に出て関わるんじゃなくて普段目につかないところで関わりたい

- ・ゴミ捨てとかしたい
- ・尼崎のイベントやボランティア活動にも参加していきたい
- ・尼崎に貢献できる人になりたい
- ・尼崎で教師をする
- ・尼崎市のイベントに参加する
- ・家族が尼崎にずっと住むと思うので、より住みやすい街になる取り組みを探求していきたい
- ・保育士として働く

3 探究テーマに関するアンケート調査②

(1)対象生徒 本事業対象生徒 : 1年6組(地域科学探究科) 40名 回答数 40名

(2)調査月 令和7年7月

(3)質問項目と調査結果

番号	(第1希望)	(第2希望)	自分が第1希望で選んだ分野について、尼崎市の魅力アップのためにどんな取り組みができる、またはしたいと思いますか。
1	教育分野	環境分野	将来有望な子供のためにわからないことを率先して教えてあげる。
2	教育分野	文化分野	今、尼崎が教育にどう携わっているのかを知りそれを伝えたいと思っています。
3	教育分野	文化分野	もっと公立高校にお金を費やしてほしい
4	教育分野	福祉分野	学ぶ機会を増やすために、イベントなどで豆知識など、学校では学べないようなミニ授業をして勉強の楽しさを知ってもらおう。
5	環境分野	文化分野	尼崎をゴミのない街にしたい
6	行政分野	防災分野	市役所さんから聞いた『尼崎、実は……こういう取り組み行ってます!!』という自分たちの知らない取り組みや対策を知ったので行政の観点から赤ちゃんでもわかりやすい説明と大人でも知らない尼の取り組みを伝えたい
7	防災分野	環境分野	尼崎市は災害からどのような対策を行っているのか知りたいと思ったからです。
8	歴史分野	福祉分野	尼崎城等で歴史についてもっと知れるイベントなどを行う
9	環境分野	歴史分野	町のゴミ拾い
10	行政分野	防災分野	自転車のマナーが尼崎は悪く、義務ではないけどヘルメットをつけている人が少ないと思うので、法律を元に自転車事故の危険性を伝えることができるかなと思いました。
11	環境分野	歴史分野	尼崎の森での植樹活動や、川の清掃活動のボランティアをする
12	教育分野	文化分野	子どもがたくさんいるから子供が利用できる場所について考えたい
13	教育分野	文化分野	まず尼崎の教育がどのように行われているか知って地元の人と交流できる機会を増やし、子どもたちが自分のまちをもっと知って良くして行きたい。課題を見つけてどうしたら改善出来るか考えたい
14	防災分野	環境分野	本当に災害が来た時のことを意識して、地域の人たちと協力しながら防災訓練をしたいと思いました。
15	教育分野	福祉分野	保育のことについて学びたいとおもったからです。
16	教育分野	福祉分野	小さい子でもできるイベントをしたいと思いました!
17	環境分野	教育分野	道を綺麗にすることができると思います
18	教育分野	福祉分野	子供連れの方が尼崎市に来たいと思えるようにするため公園を増やしたり、少しでも育児の負担が減るような取り組みがしたいと思いました。
19	教育分野	福祉分野	教育分野を選んだ理由は尼崎は年々人口が減っています。少子化を抑えるには将来街を支えていく子供の育成が大事です。子供を増やして社会を活性化するために教育は必要だと思いました。幼稚園に体験などしてみたいです。

番号	(第1希望)	(第2希望)	自分が第1希望で選んだ分野について、尼崎市の魅力アップのためにどんな取り組みができる、またはしたいと思いますか。
20	福祉分野	歴史分野	福祉についてどんなことを尼崎は行なっているのかが気になったから。
21	福祉分野	教育分野	一人一人が尼崎についての魅力を考えること。福祉などに関係する体験をしたい
22	歴史分野	文化分野	尼崎の戦争時のことを調べたいと思っています。尼崎にはどんな危険があったのかなどをたくさん調べたいです
23	福祉分野	教育分野	老人の今に興味があるから
24	教育分野	文化分野	どのようにしたら教育の面でのダメなところを改善していけるのかを考えることをしたいとおもいます
25	文化分野	歴史分野	尼崎市の歴史についてもっと詳しく知りたい
26	教育分野	防災分野	教育分野について、尼崎市の教職員は団結力があり親しみやすいという魅力を全世界に発信していくという取り組みをしたいと思っています。また、教育分野に参加することで新たな尼崎市の魅力について触れられるのではないかと期待
27	福祉分野	歴史分野	超高齢化社会の今尼崎の福祉的サービスは優れていると皆んなに知ってもらう取り組み
28	環境分野	産業分野	植林などで、生物の暮らしやすい環境にしていきたい
29	教育分野	福祉分野	色んな保育園や幼稚園、中学校、小学校に行って色んな事を学びたい
30	福祉分野	教育分野	幸せに生活するにはどうすればいいか
31	行政分野	教育分野	僕は尼崎「行きたい」と思える魅力を見つけたいと思っています。昔ながらの尼崎らしさを活かして下手に飾らずにありのままの尼崎に合った魅力を探したい
32	教育分野	福祉分野	教育系の仕事の職場体験をして、それを通してその職業の魅力を発信したい
33	環境分野	歴史分野	まず地面のガタガタさや歩道の狭さなどが伊丹市民としてきになるのでそこに注目したい
34	教育分野	文化分野	尼崎には小学校などがいっぱいあるのがいいところだと思うのでそれを発表したいと思っています。
35	教育分野	教育分野	今の尼崎市でしている教育のいいところを挙げて改善点もみつけてどうしたら良くなるかを考える
36	教育分野	文化分野	教育分野にして色々な情報を得て意見交換などをして理解したいと思ったから
37	教育分野	福祉分野	子供の触れ合い
38	教育分野	産業分野	小さい子が好きだし、小さい子と触れ合いたい、面倒を見たい。
39	教育分野	福祉分野	尼ゼミを通して、尼崎は子供連れの家族が住みにくいことを学びました。教育にあまり力が入っていないこと、マナーの面で子供に悪影響だと考える人が多いことなど教育面の理由がほとんどでした。そこで私は尼崎と反対に子供連れの家族が多く住んでいる市と比べながら、尼崎の教育に関しての問題点を見つけ、改善策を探すことで尼崎をより住みやすい街にしていきたいと考えました。
40	教育分野	福祉分野	尼崎で小さい子たちが参加できるようなイベントを開催したいと思っている。


5 授業実践の記録

1 尼ゼミ I

(1) 年間計画


令和7年度 地域科学探究科「尼ゼミ I」年間計画							
教科名 : 地域科学探究 科目名 : 尼ゼミ I 単位数 : 2 時限 : 木曜5・6限 担当者 : 計4名(担任、特色教育部長、特色教育部員2名)							
週	月	日	曜	テーマ	学習活動	外部講師	所属
1	4	17	木	オリエンテーション/春課題深堀	講義・グループワーク		
2	4	24	木	県尼の成り立ちと歴史について/図書館オリエンテーション	講義・フィールドワーク	正岡 茂明先生/河村先生	
3	5	1	木	尼崎市の政策 1	講義	曾田 研之介	尼崎市総合政策局
4	5	8	木	尼崎の企業	講義・説明会	養田 茂雄	尼崎商工会議所
5	5	15	木	貸出図書でビブリオトーク & 「帯」作成	ワーク・発表		
6	5	29	木	夏休み企業訪問準備(電話による予約と企業調べ)			
7	6	5	木	尼崎の歴史と文化	フィールドワーク・講義	高梨学芸員	尼崎市歴史博物館
8	6	19	木	図書館活用法	フィールドワーク・講義	安福 眞理子	尼崎市立中央図書館
9	6	26	木	尼崎市の政策 2	グループ学習	曾田 研之介	尼崎市総合政策局
10	7	9	水	尼崎の森(環境学習)	講義・フィールドワーク		中央緑地公園
11	7	16	水	夏課題準備	グループワーク		
12	9	2	火	ニュース検定課題考査・採点 壁新聞準備	テスト・グループワーク		
13	9	3	水6	壁新聞作成(企業訪問紹介)	グループ学習		
14	9	4	木	企業訪問深堀 壁新聞作成と発表会	グルワ・発表		
15	9	11	木	市民まつり準備	グループ学習		
16	9	18	木	関大訪問・特別授業	講義・キャンツアー	山田 剛史	関西大学教授
17	9	25	木	市民まつり準備	グループ学習		
18	10	9	木	分野別探究学習(問いを立てる)	グループ学習		
19	10	23	木	分野別探究学習(情報収集)	グループ学習		
20	10	24	金	防災学習(北淡記念公園・県立淡路高校)	フィールドワーク・グループワーク	語り部	北淡震災記念公園ボランティア
21	10	30	木	分野別探究学習(仮説を立て、手法や計画を立てる)	グループ学習		
22	11	6	木	分野別探究学習・教育と絆生と協働	グループ学習		
23	11	13	木	分野別探究学習(情報収集と分析・整理)	グループ学習		
24	11	20	木	分野別探究学習(情報収集と分析・整理)	グループ学習		
25	11	27	木	分野別探究学習・小学校実習見学	グループ学習		
26	12	16	火	分野別探究学習(まとめ・発表準備)	グループ学習		
27	12	18	木	探究学習中間発表	発表会	濱名陽子・水嶋正稔	
28	12	19	金	分野別探究学習の振り返りと修正	グループ学習		
29	1	15	木	分野別探究の修正、発表練習、準備	グループ学習		
30	1	22	木	分野別探究の修正、発表練習、準備	グループ学習		
31	1	29	木	探究発表会本番(他校外での発表)	発表会		
32	2	5	木	インターピーブル準備	グループ学習		
33	2	12	木	インターピーブル準備	グループ学習		
34	3	4	水	発表準備・練習	グループ学習		
35	3	5	木	クラス内成果発表会	発表会		
36	3	6	金	インターピーブルリハーサル	グループ学習		
37	3	9	月	インターピーブル(異世代交流会)	発表会・交流		
38				1年の振り返りと2年へ探究課題設定			

(2) 外部講師による授業

テーマ	【尼崎を知る】尼崎と県立尼崎高校の歴史について	日時	R7. 4. 27
内容	<p>講師：本校元校長 正岡 茂明</p> <p>校内のフィールドワーク。学校の変遷が分かる校訓碑、設立時の寄付者を記した銘板などを、解説を聞きながら、見学。</p> <p>その後、教室で講話。学科の変遷や地域科学探究科の役割、校歌・校章・応援歌などについて学んだ。</p>		
生徒振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県尼に深く、係われてることを誇りに思った。 ・ 学校をつくるために、みんながお金を出し合ってくれていたことを知り、しっかり勉強しようと思った。 ・ 県尼がたくさんの人々の寄付でつくられたことがわかり、地域に愛されているのが分かった。 ・ 県尼は昔からたくさんの人に支えられながら、今の県尼になったことが分かったので、大切にしたいと思った。 ・ 地域科学探究科として誇りをもって過ごしたいと思った。 ・ 尼崎城や尼崎藩について興味がわいた。 		
授業風景			


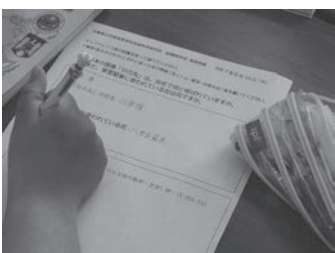

テーマ	【尼崎を知る】知ってる？尼崎市のこと ～知れば知るほど「あまがすき」～	日時	R7. 5. 1
内容	<p>講師：尼崎市 都市政策課 課長 曾田 研之介</p> <p>尼崎という自治体についてと尼崎市役所という組織についての2本柱で講話。行政から見た尼崎市の課題の一つに、「ファミリー世帯の定住・転入促進」があることを学んだ。</p>		
生徒振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ ずっと尼崎で育ってきたので、尼崎のことは分かっていると思っていたのに、意外と人口や面積など知らないことに気づいた。 ・ 今の尼崎は昔に比べると治安が良くなり、住みやすい街になっているのに、「治安が悪い街」のイメージが残っている。私たちがもっと尼崎の良さを全国に伝えていかなければと思った。 ・ 尼崎の治安が大幅に改善されていることを、市役所だけでなく、私たちが資料を作成していくのも、一つの方法だと思う。「尼崎の良いところ自慢コンテスト」などして、大きく扱えば、尼崎の良いところをもっと広まると思った。 ・ 尼崎も人口減少などの大きな課題に直面していることを知った。そんな中、市役所の職員が、尼崎という街を多方面から様々な形で支えてくれていることがよく分かった。 ・ 街づくりというのは、街を整備することだけでなく、どんな人にとっても住みやすい環 		

	境にすることも街づくりであることを学んだ ・ 市役所という組織は尼崎のいうまちの文化や人々を守っていることを知った。
授業風景	

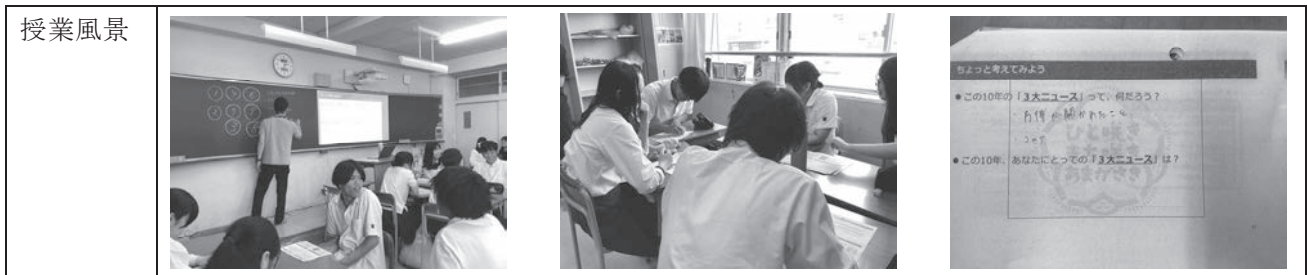
テーマ	【尼崎を知る】尼崎の企業	日時	R7. 5. 8
内容	<p>講師：(株)AtomsWorld 室長 前原 信之介 尼崎商工会議所</p> <p>尼崎市の様々な分野の産業が尼崎のモノづくりを支えている現状を講話。多くの企業を代表して、(株) AtomusWorldにお越しいただき、事業説明や仕事への思い、役割などについて講話し、その後、グループワークで、「新しいエネルギーを自由に創造してみよう」というテーマに取り組んだ。また、商工会議所からは商工会議所の組織や役割、事業説明とともに、高校生対象の共同企画などの提案もあった。</p>		
授業風景			




テーマ	【尼崎を知る】尼崎の歴史	日時	R7. 6. 5
内容	<p>講師：尼崎市歴史博物館 学芸員 高梨</p> <p>歴史博物館を訪問し、尼崎市の歴史について講話後、展示品の見学と解説。航空写真からわかる尼崎市に変遷についてグループワークを行った。</p>		
生徒振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弥生時代から現代にいたるまでの尼崎の歴史や、昔の尼崎の地形などいろんなことを学ぶことができた。また、尼崎の南部は川から流れた土砂によってできたことやタコ漁など昔の人々の暮らしも知ることができた。 ・ 昔、尼崎の南部はほとんどが海だったことを知って、「だから、尼崎の北のほうに遺跡が多いんだ」と気づきました。 ・ 尼崎にはいろんな歴史あるものが見つかることを知り、また、たくさんの展示品を見て尼崎の歴史の一端を聞いたことがとてもうれしく思えた。地域探究って、ここから深堀して新しい発見をしていくことなんだと思いました。 ・ 尼崎市が歴史豊かな街であることを知った。 ・ 尼崎のことをさらに知りたくなるきっかけになった。 		






テーマ	【尼崎を知る】尼崎市中央図書館の利用	日時	R7. 6. 19
内容	講師：館長 安福 眞理子 司書 尼崎市立中央図書館を訪問し、館内の見学と、レファレンス実習を実施。		
生徒振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本でわかる昔のことや今起きている出来事など図書館に行けば、正確な情報を得ることができることを知った。ネットには載っていない難しいことや些細なことは図書館に行つて学ぼうと思う。 ・ レファレンス実習によって、自分の足で探したい情報を見つける力と得られるものを知ることができて面白かった。 ・ レファレンス実習で、司書の方の知識量に圧倒され、素晴らしいと思った。 ・ 知識量を増やすためにも本を借りて、夏休みしっかり本を読みたいです。 ・ 普段、一般の方は入れない地下の書庫見学は、ドキドキ、ワクワクし、多くの本に圧倒されました。 		
授業風景			

テーマ	尼崎市の「未来・過去・現在」	日時	R7. 6. 26
内容	講師：尼崎市 都市政策課 課長 曾田 研之介 「過去10年を振り返り、これからの10年を考える」をテーマに個人ワークやグループワークを実施。事後発表も行った。		
生徒振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尼崎の未来についてや、過去10年間の3大ニュースなど、班や自分の意見を言い合い考え、発表するのがすごく楽しかった。 ・ 市制100周年でのイベントはあまり覚えていないので、110周年の時はどんなイベントが行われるか注目したいです。 ・ グループワークで過去10年間の3大ニュースを考えた時、大きな出来事がもう何年前のことなのかが、実感できず、今回の授業で「今はいつか歴史になる」ことを身をもって体験することができた。未来のために今をしっかり記録していくことが大切だと知った。 ・ 今回の授業で未来の尼崎の姿について考えた。人口減少がどんどん進むという課題を改善するには、尼崎の町を楽しく、子どもたちも安心して暮らせるよう、ボランティアなどでこの街をきれいにし、治安を良くしていくことが大切だと思った。 		



テーマ	尼崎の森 環境学習	日時	R7.7.9
内容	<p>講師： 尼崎の森中央緑地パークセンター 石丸 京子 他</p> <p>尼崎の森中央緑地を訪問し、「生物多様性」をテーマに講演後、中央緑地の自然観察。観察中に、かやぶき民家で、昔の暮らし体験紹介や13年前県尼生が育ててきた「県尼の森」や原木シイタケセミ産卵についての解説と見学を行い、森について学んだ。</p>		
生徒振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「県尼の森」があることを初めて知った。先輩たちが育ててきた森を、自分たちも受け継いで育てていくことにワクワクして楽しみです。 ・ 人の手で作った自然を見に行くことができ、すごく貴重でした。 ・ セミが枯れた木の枝に卵を生むこと等初めて知ることが多くておもしろかった。 ・ 生物多様性がこれからの環境を救えるかもしれないこと、生物のおかげ発明された「バイオミミクリー」がたくさんあることを学んだ。 		
授業風景			

テーマ	防災学習	日時	R7.10.24
内容	<p>講師：北淡震災記念公園 語り部 森さん、県立淡路高校2年「防災と心のケア」選択者</p> <p>北淡震災記念公園では語り部の方より60分間の講話をセミナー室で聴き、保存されている野島断層やメモリアルハウスを自由に見学し、震災体験館でVRを使った地震体験を行った。午後からは県立淡路高等学校を訪問し、2年生の選択科目「防災と心のケア」の授業に特別参加させていただき、授業での取組について聴講し、各校の学校紹介をクイズ等の趣向を凝らして行い、合同のグループで、災害時の判断や対応についてケーススタディ式意見交換を行い発表する等の授業を行った。</p>		
授業風景			

(3) 分野別グループ探究

「尼ゼミ I」学習指導案

実施日時	11月20日(木) 5・6校時
実施教室	1-6教室(東館3階)・211教室(東館2階)・探究ルーム(東館4階)・図書館(東館4階)
対象生徒	1年地域科学探究科(40名)
指導者	中井 香寿代・尾花 拓仁・井上 雅博・細田 みどり・林 保典

1 単元名 「尼崎市魅力アッププロジェクト」をテーマに分野別グループ探究を行う

2 単元目標

尼崎が抱える課題や魅力に着目し、探究学習の基礎となる、問いを立てる力、調べる力、整理分析しまとめる力、他者の意見を傾聴しながら自分の考えを伝える力を理解し、身につけるとともに、地域の一員として、自分たちにできることを考え実践しようとする態度を養う。

3 単元設定の理由

(1) 教材観

1学期に学んだ「尼崎を知る」をテーマとした、地域の各専門家の尼崎についての学習を基に、自身の興味関心から選んだ「教育」「福祉」「行政」「歴史文化」「環境」「防災」の各分野からアプローチした課題を、探究教材として取り組む。

(2) 生徒観

幅広い学力層の生徒が集まったクラスであるが、探究活動への意欲が高く、校外学習や体験活動、グループワークなどに前向きに積極的に取り組む生徒が多い。難しすぎない課題であれば、楽しんで取り組むことができる生徒が多い。

クラスの85%が尼崎市民であり、自分の生まれ育った地域をよくしたいとの熱い思いをもって学習に臨んでいる生徒が多い。

(3) 指導観

初めての探究学習への取組であり、興味関心を基に主体的に取り組む態度を養うよう、グループでの活動と、地域との協働学習を積極的に取り入れ、教員は伴走者として、多くの口出しをせず、まずはやってみる、取り組んでみるという姿勢を大事にする。

教員にとっても初めての指導経験であり、指導面の視点合わせ、課題の掘り出しなどを情報共有、協議しながら、進めている。

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
探究の過程において、課題の発見と解決に必要な基礎的な知識及び技能を身につける。	地域に関して理解したことや気づいたことについて、問いを立て、調査分析を行い、他者に分かりやすく表現できる。	探究学習に主体的、協働的に取り組むとともに、地域の課題について解決・改善策を提案できる。

- 5 指導計画（計20時間） ※中盤以降はグループにより計画変更有
- ・問いを立てる（2時間）
 - ・情報収集（2時間）
 - ・仮説を立てる・課題の決定（2時間）
 - ・必要な手法を考え、計画を立てる（2時間）
 - ・必要な体験活動やフィールドワークの実施（2時間）
 - ・整理・分析と更なる情報収集（2時間）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・本時
 - ・発表資料の作成（4時間）
 - ・発表練習、リハーサル、クラス内発表、校内外での探究発表（4時間）

- 6 本時の目標
- ・アンケートやインタビュー、体験活動、フィールドワークなどで収集した情報をグラフ化したり、図やイラストも入れて読みやすくまとめる。
 - ・収集、整理したすべての情報を見ながら、問いに対する答えや根拠となる情報があるかを考える。説得力に欠ける場合は、更なる情報の収集を議論検討する。

7 本時の展開

段階	時間	学習活動	指導上の留意点	備考
導入	15分	・各グループの進捗状況を発表し、確認する。	・他グループの状況を聞き、参考にする。	
展開	80分	・各グループに分かれ、本時の計画を確認し、実施する。 ・班により学習活動は異なるため、各班の詳細は別紙参照 ・各班で役割分担して、収集した情報を各自のiPadのExcel等で表 ・グラフ化したりまとめたりする。 ・必要な情報がそろっているかを議論検討する。 ・発表用の資料を各自のiPadのPowerPointで作成する。等	・各グループの議論や活動状態を机間巡視しながら観察する。	評価方法 ・学習計画表の振り返り
まとめ	5分	・今日のまとめと次時以降ですべきことの確認。場合によっては次時までにするべきことの確認。 ・振り返りの記入。		

2 総合的な探究の時間（セルフ＝ナビⅠ）

（1）年間計画

1年生 総合的な探究の時間（セルフ＝ナビ） 年間計画				
週	月	日	曜	学習活動
1	4	21	月	遠足先を調べる
2	5	12	月	オリエンテーション講演「探究とは」 関西国際大学副学長 山下 泰生
3		26	月	文化祭に向けて
4	6	2	月	文化祭に向けて
5		9	月	文化祭に向けて
6		16	月	進路研究
7		23	月	進路研究
8	9	8	月	探究「SDG s と私」説明（探究の進め方）
9		22	月	探究「SDG s と私」（問いを立てる）
10		29	月	探究「SDG s と私」（問についての情報を集める）
11	10	6	月	探究「SDG s と私」（仮説を立てて、情報を整理分析をする）
12		27	月	探究「SDG s と私」（情報収集と整理分析をする）
13	11	10	月	探究「SDG s と私」（発表スライドの作成）
14		17	月	探究「SDG s と私」（発表スライドの作成）
15	12	1	月	探究「SDG s と私」（発表スライドの作成）
16		18	木	クラス内発表
17		18	木	クラス内発表
18		19	金	クラス内発表
19		19	金	クラス内発表
20	1	19	月	振り返り／マイクロディベート（進め方）
21		26	月	マイクロディベート（バタフライチャート作成）
22	2	9	月	マイクロディベートをやってみよう

(2) 授業内容

① 探究オリエンテーション

探究学習と 今後の取組について

1年生後半のセル=ナビ授業について

探究学習とは

- 習得した知識や技能を活用し、問題解決的な学習を繰り返しながら、物事の本質を見極めようとする学習。

↓

- 答えが見つからなかったり、複数ある問いに対して、自分なりの答えを探していく活動のこと。

なぜ、今探究が必要とされるのか。

- 「VUCA」の時代がやってきた
Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)
- 将来を予測することが難しい時代

答えのない問いに対して自分の頭で考え、他人も納得できる自分なりの答えを出して進んでいく姿勢が大切。

求められる力とは？

図 3つのキー・コンピテンシー

図 3つのキー・コンピテンシー

- 異なる集団で交流する
 - A 他者とよく関わり、切磋琢磨し、解決する
- 自律的に活動する
 - A 大きな課題の中で活動する
 - B 人生計画や個人的プロジェクトを設定し、実行する
 - C 自らの権利、利益、限界やニーズを表明する
- 相互作用的に道具を用いる
 - A 言語、シンボル、テキストを相互作用的に用いる
 - B 知識や情報を相互作用的に用いる
 - C 技術を相互作用的に用いる

コンピテンシーの核心
思慮深さ
(reflectiveness)

社会人基礎力 ～産業界が若者に求める力～

【社会人基礎力】
経済産業省が定義した「3つの能力・12の能力要素」

職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力

前に踏み出す力 (アクション)	とらえかた (マインド)	チームで働く力 (チームワーク)
<ul style="list-style-type: none"> 一歩前に踏み出し、失敗しても振り返り取り組む力 	<ul style="list-style-type: none"> 疑問を持ち、考え抜く力 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人々とともに、目標に向けて協力をする力
<ul style="list-style-type: none"> 主体性 働きかけ力 実行力 	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見力 計画力 創造力 	<ul style="list-style-type: none"> 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

探究学習を通して身につけたい力とは？

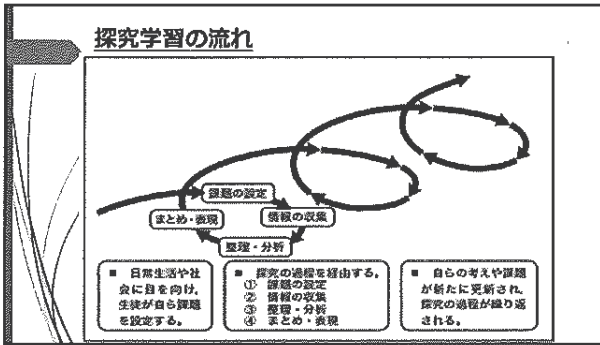
- 自分で社会や実生活の課題を発見し、「自分ごと」として解決策を追究するために、様々な人と協働して、主体的な態度で学び続け、ある程度の他人も納得、理解される、問題解決していく力を身につける。

今後の計画

- 8月
 - ・オリエンテーション
- 9月22日～12月
 - ・課題の設定（ウェビングマップ作成）・・・1時間
 - ・問いを立てて、仮説を立てる・・・1時間
 - ・情報収集し、課題の再考・・・1時間
 - ・情報収集し、整理分析・・・3時間
 - ・まとめ、発表準備、練習・・・1時間
 - ・クラス内発表、代表者選抜・・・2時間
- 1月29日
 - ・1・2年合同成果発表会（オクトホール）

探究学習のプロセス (p8～9)

- ①課題の設定・・・疑問や問題意識を持った自分の中にある「問い」を見つける。
- ②情報の収集・・・問いに答えるために必要な情報を集める。
- ③整理・分析・・・集めた情報をわかりやすく整理し、いろんな視点で分析する。
- ④まとめ・表現・・・分析した結果をまとめ、聞き手の立場に立って、他者に分かりやすく伝えたり議論する。



探究学習への取り組み方 (p11)

個人	グループ
<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の興味関心に合わせて課題を設定しやすい。 自分のペースに合わせて進められる。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人の力で、できる範囲に限られる。 考えがまとまらない可能性がある。 <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生に相談したり、同じような課題に取り組む生徒と情報交換したりすること。 	<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 広い範囲で情報収集ができる。 それぞれの得意分野を生かせる。 オンラインツールなどを使って一気に進捗できる。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員が参加して取り組む必要がある。 課題設定では、全員が意見をいえるように役割を立てる。 <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に進捗報告や意見交換をするように。
<p>自由に課題を設定できる場合</p> <p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きなことが探究できる。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びの場があることや課題設定したこととをノートなどに記入し、振り返ることが大切。 <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> グループの中で、まったく興味がないという人がいないようにする。 	<p>課題設定に指定(分野)がある場合</p> <p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 深い学びが期待できる。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びが浅い。 <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究の過程を理由する、自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

探究学習への取り組み方 (p11)

個人	グループ
<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の興味関心に合わせて課題を設定しやすい。 自分のペースに合わせて進められる。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人の力で、できる範囲に限られる。 考えがまとまらない可能性がある。 <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生に相談したり、同じような課題に取り組む生徒と情報交換したりすること。 	<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 広い範囲で情報収集ができる。 それぞれの得意分野を生かせる。 オンラインツールなどを使って一気に進捗できる。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員が参加して取り組む必要がある。 課題設定では、全員が意見をいえるように役割を設定する。 <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に進捗報告や意見交換をするように。
<p>自由に課題を設定できる場合</p> <p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きなことが探究できる。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びの場があることや課題設定したこととをノートなどに記入し、振り返ることが大切。 <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> グループの中で、まったく興味がないという人がいないようにする。 	<p>課題設定に指定(分野)がある場合</p> <p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 深い学びが期待できる。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びが浅い。 <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究の過程を理由する、自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

探究学習への取り組み方 (p11)

個人	グループ
<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の興味関心に合わせて課題を設定しやすい。 自分のペースに合わせて進められる。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人の力で、できる範囲に限られる。 考えがまとまらない可能性がある。 <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生に相談したり、同じような課題に取り組む生徒と情報交換したりすること。 	<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 広い範囲で情報収集ができる。 それぞれの得意分野を生かせる。 オンラインツールなどを使って一気に進捗できる。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員が参加して取り組む必要がある。 課題設定では、全員が意見をいえるように役割を設定する。 <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に進捗報告や意見交換をするように。
<p>自由に課題を設定できる場合</p> <p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きなことが探究できる。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びの場があることや課題設定したこととをノートなどに記入し、振り返ることが大切。 <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> グループの中で、まったく興味がないという人がいないようにする。 	<p>課題設定に指定(分野)がある場合</p> <p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 深い学びが期待できる。 <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びが浅い。 <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究の過程を理由する、自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

テーマ

➡ 「SDGs と私」

SDGs とは

SUSTAINABLE GOALS

目標1: 貧困をなくそう
目標2: 飢餓をゼロに
目標3: 健康と長寿を追求しよう
目標4: 質の高い教育をみんなに
目標5: ジェンダー平等を実現しよう
目標6: 安全な水とトイレを世界中に
目標7: エネルギーをみんなに
目標8: 働きがいも経済成長も
目標9: 産業とイノベーションに力をつなげる
目標10: 人や国を超えて公正で包摂的な成長を促進しよう
目標11: 住み続けられるまちづくりを
目標12: つくばないで暮らそう
目標13: 気候変動に具体的な対策を
目標14: 海の豊かさを守ろう
目標15: 陸の豊かさも守ろう
目標16: 平和と公正をすべての人に
目標17: パートナーシップで目標を達成しよう

SDGsのターゲットと指標、手段について

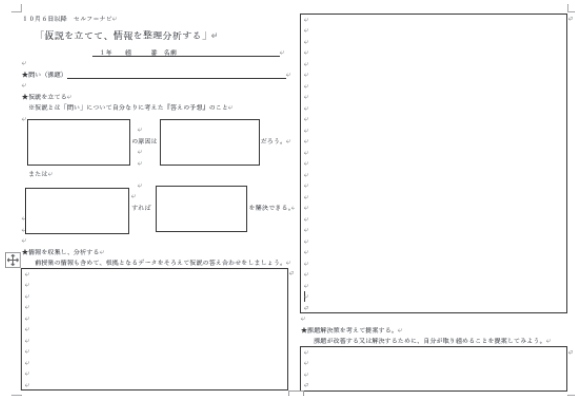
ターゲット	指標	手段
1.1 2030年までに、貧困(絶対)を根絶し、あらゆる人々と途上国で代わりの発展の基礎をおさるる開発戦略を策定する。	1.1.1 国際的貧困ライン(1日1.90ドル未満)に陥る人口の割合(貧困率、絶対的貧困率、相対的貧困率)	1.1.1 貧困削減の持続可能な開発目標(SDG)の進捗状況(貧困削減)
1.2 2030年までに、貧困削減による持続可能な開発の基礎をおさるる、全ての人の所得、女性、子供の割合を平等化する。	1.2.1 貧困削減の持続可能な開発目標(SDG)の進捗状況(貧困削減)	1.2.1 貧困削減の持続可能な開発目標(SDG)の進捗状況(貧困削減)
1.3 2030年までに、貧困削減による持続可能な開発の基礎をおさるる、全ての人の所得、女性、子供の割合を平等化する。	1.3.1 貧困削減の持続可能な開発目標(SDG)の進捗状況(貧困削減)	1.3.1 貧困削減の持続可能な開発目標(SDG)の進捗状況(貧困削減)

課題設定する上で大切なこと

- 自分自身とのかかわりの中で課題を設定すること。
- 「他人事」でなく「自分ごと」として取り組む。

「仮説を立てて、情報を整理分析する」指導例

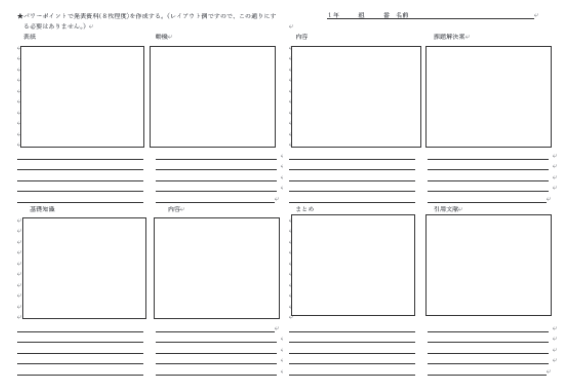
項目と時間	内 容
課題（問い）の確定	★前時の問いについての答えにつながるヒントの情報収集ができれば、その問いを基に、具体的な課題（問い）として確定させる。 →できたものから採集に提出、プレゼンさせる →採集ワークp22のワーク1の下にも記入させる。
仮説を立てる	★課題（問い）を解決するための「仮説」を立てさせる。 ・仮説とは、自分なりに考えた「答えの予想」のこと。 ・「○○の原因は××だろう」「○○すれば××を解決できる」という形で考えさせる。 ・仮説があっているかどうかは気にしなくてよい。 ・仮説が立たない場合にもっと調べながら仮説を固めていけばよい。 →採集ワークp22のワーク2にも記入させる。
情報収集、分析をする	★仮説の検証のための情報を収集整理する。 ★採集ワークp42～43を用いて、インターネットでの検索方法について参考させる。 ★前時の授業で見つけた問いについての文献や課題についての本を読む場合は、採集ワークp38～39を用いて、本校図書室や道徳図書館を服用できないか、考えさせる。
仮説の検証	★集めた情報を分析・考察し、立てた仮説が正しいか、間違っているかを判定する。 → 正しければ、仮説の裏付けとなる客観的なデータをまとめておく。さらに新たな仮説を立て、繰り返す → 仮説が間違っていれば、なぜ間違っているかの根拠となる客観的データをまとめておく（これも発表材料となる）、新たな仮説を再設定するか、前回の仮説を修正する。
課題解決策を提案する	★課題が少しでも改善するための解決策や改善案を考えて提案しよう。



セルフナビ 「発表資料（と原稿）をつくる」指導例

項目と時間	内 容
発表資料の作成	★パワーポイントかロイロノートで発表資料を作成させる。 「表紙」「動機」「基礎知識」「内容1」「内容2」「課題解決案」「実践の方法」「考えられる成果と課題（まとめ）」「引用文献・参考文献」などについて8枚～10枚程度にまとめる。 ★発表時間は2分間で、発表原稿600字～700字にまとめて、当日は発表原稿を見ずに、発表できるように練習させる。 ★発表資料の最終提出は、12月12日（金）考査直前日の17時までであることを伝える。 ★クラス発表は12月15日（月）～19日（金）に2時間設定して行い、クラス代表1名～2名を選抜することを伝える。

- ★クラス発表会に向けての確認事項（11月18日 学年会議）
 - 1 パワポの発表練習 11月19日（水）LHR前
 - 2 パワポの発表方法と提出先（郵送）
 - 3 パワポの発表 12月1日（月）セルフナビ時
 - 4 パワポの修正と発表原稿作成を12月15日～特設授業中 何時間必要？
発表時間は一人2分、原稿600～700字程度を作成し、原稿を見ずに前を向いて発表できるよう練習。
 - 5 クラス内発表と選抜者クラス1名決定 12月18日（3～4組）・19日（3～4組）
評議をどうするか？ 生徒の相互評議を入れる？
 - 6 パワポの必須内容
表紙に「課題（タイトル）」と「1年組番号・名前」
2枚目に動機やきっかけ
最終ページには引用文献・参考文献を記載
7 ポスターとしてすぐれた作品になりそうなものをポスターにして外廊に展示してよい？



③ マイクロディベートをやってみよう。

1月26日(月) セルフナビ 指導例

「パタフライチャートの作成」

項目と時間	内容
説明と理解(9分)	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度の競争に視した、「マイクロディベート」を毎年度の2月9日(月)に実施することを今年に開始し、今日はそのための準備、パタフライチャートの作成をすることを伝える。 ・紙の配布とディベートの流れの説明。(別紙参照) ★ マイクロディベートの時間配分(20分×2試合) ① 肯定側立論 2分 ② 否定側質疑 1分 ③ 肯定側立論 2分 ④ 否定側質疑 1分 ⑤ 反ばく準備 5分 ⑥ 否定側反ばく 1分 ⑦ 肯定側反ばく 1分 最終弁論準備 ⑧ 肯定側最終弁論 1分 ⑨ 否定側最終弁論 1分 審査時間 1分 ⑩ 判定 2分
テーマ発表(1分)	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを発表する。 「このテーマは事前に各クラス2つを、担任の先生で決めてください。」 「テーマ例(下記から選んでも、その他のテーマでもかまいません)」 「高校生に制服は必要か、(私服学校にすべきか)」 「アルバイトは高校生にとって良い経験になるのか」 「SNSは高校生にとってプラスかマイナスか」 「高校生がスマートフォンやタブレットを個人持ちして授業で使う必要があるか」 「高校生にも給食を導入すべきか」 「週休3日制を導入すべきか」 「きのこの山とたけのこの里はどちらがおいしいか」 「ペットの飼育は好きですか」 「家事は分担すべきか(得意な人が担当すべきか)」 「食材の産地表示は消費者にとって重要か」
立論や予想される反論を考える(40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・各班(20班)に1枚のパタフライチャートを通して、論の前半部分にテーマ、 肯定側は右側の大きい羽に立論で「必ず理由や根拠を、小さい羽に予想される反論や質問を考へ、調べて書き込ませる。 否定側は左側の羽に同じ書き込む。 ・時間内にまだめられなかった班は、2月8日まで二人で時間を作って、まどめることを指示。

○立論とは、最初に行う主張のことで、テーマに対する賛成・反対それぞれの役割に応じて、賛成・反対の理由や根拠を示します。

○質疑とは、相手の立論の内容について、不明確な点を明らかにするために疑問を求め、疑義点を問うことです。ですから、質疑に対しては回答が必要です。

○反ばくとは、相手の主張に反対の意見を述べることです。

○判定は、ジャッジが一人ずつ、どちらが勝ちかを言い、獲得力のあった所や決め手となった理由を述べてください。引き分けになってかまいません。

1年セルフナビ 「マイクロディベートをやってみよう」

1. 根拠を明らかにし、()に必ず理由や根拠を記入しよう。

2. 「パタフライチャート」の準備をしよう。

3. 両者が議論について「意見を述べた」「人をきく」という2つの役割に分かれて話し、準備された議題について話し合おう。

4. ジャッジが判定をする観点

5. ディベートで話すときに気をつけること

6. ディベートで話すときに気をつけること

7. ディベートで話すときに気をつけること

8. ディベートで話すときに気をつけること

9. ディベートで話すときに気をつけること

10. ディベートで話すときに気をつけること

11. ディベートで話すときに気をつけること

12. ディベートで話すときに気をつけること

13. ディベートで話すときに気をつけること

14. ディベートで話すときに気をつけること

15. ディベートで話すときに気をつけること

16. ディベートで話すときに気をつけること

17. ディベートで話すときに気をつけること

18. ディベートで話すときに気をつけること

19. ディベートで話すときに気をつけること

20. ディベートで話すときに気をつけること

21. ディベートで話すときに気をつけること

22. ディベートで話すときに気をつけること

23. ディベートで話すときに気をつけること

24. ディベートで話すときに気をつけること

25. ディベートで話すときに気をつけること

26. ディベートで話すときに気をつけること

27. ディベートで話すときに気をつけること

28. ディベートで話すときに気をつけること

29. ディベートで話すときに気をつけること

30. ディベートで話すときに気をつけること

31. ディベートで話すときに気をつけること

32. ディベートで話すときに気をつけること

33. ディベートで話すときに気をつけること

34. ディベートで話すときに気をつけること

35. ディベートで話すときに気をつけること

36. ディベートで話すときに気をつけること

37. ディベートで話すときに気をつけること

38. ディベートで話すときに気をつけること

39. ディベートで話すときに気をつけること

40. ディベートで話すときに気をつけること

41. ディベートで話すときに気をつけること

42. ディベートで話すときに気をつけること

43. ディベートで話すときに気をつけること

44. ディベートで話すときに気をつけること

45. ディベートで話すときに気をつけること

46. ディベートで話すときに気をつけること

47. ディベートで話すときに気をつけること

48. ディベートで話すときに気をつけること

49. ディベートで話すときに気をつけること

50. ディベートで話すときに気をつけること

51. ディベートで話すときに気をつけること

52. ディベートで話すときに気をつけること

53. ディベートで話すときに気をつけること

54. ディベートで話すときに気をつけること

55. ディベートで話すときに気をつけること

56. ディベートで話すときに気をつけること

57. ディベートで話すときに気をつけること

58. ディベートで話すときに気をつけること

59. ディベートで話すときに気をつけること

60. ディベートで話すときに気をつけること

61. ディベートで話すときに気をつけること

62. ディベートで話すときに気をつけること

63. ディベートで話すときに気をつけること

64. ディベートで話すときに気をつけること

65. ディベートで話すときに気をつけること

66. ディベートで話すときに気をつけること

67. ディベートで話すときに気をつけること

68. ディベートで話すときに気をつけること

69. ディベートで話すときに気をつけること

70. ディベートで話すときに気をつけること

71. ディベートで話すときに気をつけること

72. ディベートで話すときに気をつけること

73. ディベートで話すときに気をつけること

74. ディベートで話すときに気をつけること

75. ディベートで話すときに気をつけること

76. ディベートで話すときに気をつけること

77. ディベートで話すときに気をつけること

78. ディベートで話すときに気をつけること

79. ディベートで話すときに気をつけること

80. ディベートで話すときに気をつけること

81. ディベートで話すときに気をつけること

82. ディベートで話すときに気をつけること

83. ディベートで話すときに気をつけること

84. ディベートで話すときに気をつけること

85. ディベートで話すときに気をつけること

86. ディベートで話すときに気をつけること

87. ディベートで話すときに気をつけること

88. ディベートで話すときに気をつけること

89. ディベートで話すときに気をつけること

90. ディベートで話すときに気をつけること

91. ディベートで話すときに気をつけること

92. ディベートで話すときに気をつけること

93. ディベートで話すときに気をつけること

94. ディベートで話すときに気をつけること

95. ディベートで話すときに気をつけること

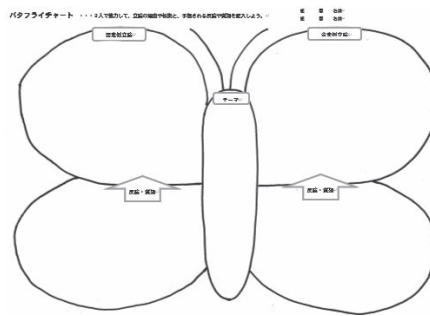
96. ディベートで話すときに気をつけること

97. ディベートで話すときに気をつけること

98. ディベートで話すときに気をつけること

99. ディベートで話すときに気をつけること

100. ディベートで話すときに気をつけること



2月9日(月) セルフナビ 指導例

「マイクロディベートをやってみよう」

項目と時間	内容
説明と理解(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャッジ用に一人1枚ずつ判定シートとメモ用のパタフライチャートを配布。 ・席を移動させる。 ・本時の流れを説明する。 ★ マイクロディベートの時間配分(20分×2) ① 肯定側立論 2分 ② 否定側質疑 1分 ③ 肯定側立論 2分 ④ 否定側質疑 1分 ⑤ 反ばく準備 5分 ⑥ 否定側反ばく 1分 ⑦ 肯定側反ばく 1分 最終弁論準備 ⑧ 肯定側最終弁論 1分 ⑨ 否定側最終弁論 1分 審査時間 1分 ⑩ 判定 2分
ディベート実践(40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・担任はタイムキーパーを担います。(タイマー準備します) ・座席例
振り返り(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に判定シートを提出させて終了。(時間がなければ後日回収でもOKです。)

13125~13145 前半チーム

13145~14105 後半チーム

優先順位は①<②<③

★ マイクロディベート 判定シート 監査 必要

項目	肯定側	否定側
1 データを適切に活用していたか		
2 相手に的を射た反論ができていたか		
3 理由説明に説得力があったか		

総合判定(1-3の欄を参考にして良かったほうに「勝」記入)

総合判定の理由

★振り返り

ディベート(討論する側、ジャッジする側)をやってみた感想や学びを記入して提出してください。

6 授業成果発表会の記録

1 探究学習成果発表会

開催日時 令和8年1月29日
会場 あましんアルカイクホール・オクト

(1) 当日の流れ

- ・ 開会行事 挨拶 校長
- ・ セルフ＝ナビⅠ発表 (1年生代表生徒)
- ・ ニゼミⅠ発表 (1年6組 地域科学探究科生徒)
- ・ セルフ＝ナビⅡ発表 (2年生代表生徒)
- ・ 講評 関西大学 山田 剛史教授
- ・ 閉会

(2) 目的

一年間の特色ある授業の成果をまとめ、発表することにより、自分の考えや思いを伝えるプレゼンテーション能力を養う。また、他者の発表を傾聴することで多角的な視点で物事を捉える力を養う機会とする。

(3) 説明

セルフ＝ナビ： 総合的な探究の時間。1単位で実施。

ニゼミⅠ： 地域科学探究科独自の学校設定科目。2単位で実施。

(4) 発表内容

セルフ＝ナビⅠ発表(1年) 「SDGsと私」

発表順	タイトル
1	二酸化炭素と日本
2	海の豊かさを守ろう
3	子育てがしやすい社会をつくるにはどうすればよいか？
4	気候変動の原因
5	日本のスラム？今と未来
6	なぜ日本で詐欺が増加しているのか？
7	世界の貧困問題について
8	人や国の不平等をなくそう
9	海の豊かさを守ろう
10	伝染病が放置され、拡大を防げない理由

「尼ゼミⅠ」発表（1－6 地域科学探究科）「尼崎市魅力アッププロジェクト」

発表順	タイトル
1	尼崎の見た目を良くしよう
2	なぜ朝食を食べない人が増えているのか

セルフ＝ナビⅡ発表（2年） 「自由探究」

発表順	タイトル
1	犬に人の言葉はわかるのか
2	部活動は本当にしていた方が良いのか？
3	推しと恋と友情の境界はどこにあるのか？
4	性格は顔に表れるのか？
5	変人の解釈
6	「普通」は価値観で証明できるか
7	みんながいいと思う返信とは？？
8	一夜漬けと計画的な勉強の違いについて
9	間食による体重変化

パネルによるスライド展示（ロビー）

タイトル
海の豊かさを守ろう
男女差別について
なぜ日本の高齢者に福祉サービスが行き届かないのか
このまま海洋汚染が悪化するとどのような影響が出るのか
どうすれば全ての人が健康に過ごせるのか
なぜ食料不足なのか？

2 1年地域科学探究科 “地域と絆” 探究発表会

開催日時 令和8年3月5日

会場 本校 視聴覚室

発表班	タイトル	要旨
教育5班	中学校部活動の地域移行では、生徒の活動機会を本当に守れているのか	私たちは、部活動が縮小されている現状への対策を探究しました。母校と教育委員会へのインタビューの結果、部活動を地域クラブに移行する方針であることが分かりました。その中で、地域クラブを知る機会の減少が一番の課題であり、結果として活動機会の格差にもつながると捉え、誰もが平等に情報へアクセスできる仕組みづくりが必要だと考えました。さらに、高校側の認識を明らかにするためにアンケートを実施しました。
教育6班	私たちが考える面白い授業とは	私たちの班のメンバーは、今の授業をあまり面白い・楽しいなど意欲的に取り組めていないと考えました。そこで中高生を対象にアンケートを行った所、同じ思いをしている人が過半数いたため、どんなスタイルの授業だと意欲的に授業を受けられるのか調べました。授業のスタイルは参加型で、グループに分かれて友達との交流が多い方が意見も出しやすい面白い授業だという結論に至った。
行政班	商店街を活用して尼崎市の“魅力”を伝えたい	私たちは商店街を軸に尼崎の魅力伝えよう取り組みました。きっかけは商工会議所での職業体験をして、企業に興味を持ったから。まず商店街の現状を知るために、インタビューをしたりして情報を集めた。ここから若い人が少ないという現状の課題を知り、若い人たちが商店街に来てくれるようなことを商店街で実行していこうと考えています。
防災班	防災マップで高齢者を守れるか	私たちは「再学事に高齢者の避難が遅れやすいため少しでも被害を防ぎたい」という思いから、「防災マップで高齢者を救えるか」というタイトルで探究することにしました。高齢者が集まるふれあいサロンでハザードマップについて様々な意見をもらい、その意見に基づいて高齢者がより見やすい防災マップを作りました。ふれあいサロンの高齢者の方々に見てもらい、この防災マップが速やかな避難行動に役立つかどうか調査する予定です。
福祉2班	高齢者にとって健康な生活とは何か	私たちは「高齢者にとって健康な生活とは何か」をテーマに探求しました。尼崎のふれあいサロンを訪れ、体操や脳トレ、交流活動を通して、健康には「身体的、精神的、社会的」の3つが大切だと分かりました。 アンケート結果から、食事・睡眠・運動は身体だけでなく心の健康にも関係していることが分かりました。 私たちは、健康な生活とは身体と心の安定がそろふことだと考え、今後はサロンの参加を広める活動をしていきたいと考えています。
教育4班	なぜ朝食を食べない子どもが増えているのか	私たちはなぜ朝食を食べない子どもが増えているのか原因を調べました。アンケート調査をおこなったところ、食べる時間がないということが分かりました。 個人の努力だけでは解決できない人もいますので、学校にサポートをして、朝食を提供したら血色率も減るのではないかと！

教育1班	尼崎市において『地域教育』は若年者層の地域定住に影響しているのか	尼崎市において地域教育が若年層の地域定住に影響を与えているのかを検証した。地域教育による地域愛の醸成が定住選択につながると仮定し調査を行ったが、人口移動やアンケートの結果から居住地選択の主な要因は利便性であり地域愛の影響は小さいことが分かった。以上より地域教育は地域定住への直接的効果が低い可能性が示された。一方で、教育環境や治安への不安を軽減する施策が人口流出の抑制につながる可能性があると考えられる。
教育3班	紙芝居作り～幼児のスマホ時間増加について～	私たちは、幼児のスマホ使用時間増加による問題をテーマに進めています。私生活でよくスマホを触っている子どもを見かけます。最近はスマホの普及もあり、色々な課題があります。大人でもスマホを長時間使う人がとても多いので、まずは小さいうちから使用方法を正しく学ぶべきだと考えました。幼児にも理解しやすい紙芝居を通してスマホの長時間使用によるデメリットを伝えたいと思いました。今後は様々な場所で紙芝居を行う予定です。1人でも多くの方が理解できる紙芝居を作成中です。
歴史文化班	尼崎市の都市の性質 外国人観光客が少ないのはなぜか？	私たちは、尼崎とはどんな町なのかを調べました。このことで、尼崎には観光客が少ないことがわかり、なぜ少ないのかを調べました。結果、あそびに来る都市ではなく仕事に来る都市だとわかりました。
教育2班	子どもたちの目的に合った公園づくりを提案する	私たちは尼崎の子どもたちの運動量が少ないのでは？という仮説から、現状を知るため小学生にアンケートをとった。その結果、仮説は立証し、尼崎の公園の数が多くことに注目し、子どもたちの求める公園をつくるという目標を立てた。今回は今福公園のデザインとして、子どもたちのアンケートの結果をもとに、フェンスを立てたり、遊具の撤去、導入をすることを提案する。
福祉1班	子ども食堂について	私たちは、子ども食堂の役割と現状について調べました。子ども食堂は食事を提供するだけでなく地域の人との交流場、子どもの居場所作りとして大切な役割を果たしています。
環境2班	尼崎の見た目を良くしよう	私たちの高校がある尼崎を見ると道にゴミがかなり落ちていたと思った。そこで、落ちていたゴミはどのような種類があるか知りたかったのでこのタイトルにした。 尼崎市内のゴミ拾いやラブリバー庄下川作戦に参加して尼崎の道の現状を知った。するとタバコの吸い殻が多く落ちており県尼の周りにも落ちていた。尼崎市はタバコ問題について対策をとっているのか調べた。
環境1班	生物多様性について	僕たちは、今と昔の尼崎の海の違いについて調べました。尼崎の海は昔は汚くて今はきれいになっているらしいです。 一番興味深かったのは海の水がきれいすぎて栄養がなくなっているということです。

7 次年度に向けての計画

1 令和8年度 年間事業計画

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月		・ 地域関係団体との懇談会①
5月	・ 外部講師による特別講義① ・ 環境学習①（県立尼崎の森中央緑地）	・ 第1回コンソーシアム委員会（学校運営協議会） ・ 職員研修会①（外部講師）
6月	・ こどもクラブ実習	・ 尼崎市内公立高等学校合同説明会・学科説明会① ・ オープン・ハイスクール①
7月	・ 外部講師による特別講義② ・ 兵庫県阪神南県民センター「環境フェア」での発表（尼崎市） ・ 運営指導委員会①	・ 学校評議員会①
8月	・ フィールドワーク「企業見学・インタビュー」 ・ 専門職大学訪問・特別授業①（豊岡市）	・ 四者（生徒・保護者・地域・学校各代表）懇談会 ・ 職員研修会②（校内）
9月	・ 大学訪問・特別講義②（関西大学） ・ 指定校発表会（文部科学省） ・ 長崎県立松浦高等学校との交流会 ・ 外部講師による特別講義③	・ オープン・ハイスクール② ・ 学科説明会②
10月	・ 「市民祭り」実習（尼崎市立中央中学校） ・ 小学校実習の模擬授業 ・ 防災学習（北淡震災記念公園・淡路高校）	・ 職員研修会③（外部講師）

1 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校での授業実習（尼崎市立金楽寺小学校） ・ 他校生との探究会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープン・ハイスクール③ ・ 第2回コンソーシアム委員会（学校運営協議会）
1 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師による特別講義④ 	
1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究学習成果発表会（校内） ・ 運営指導委員会② ・ 尼崎市みらい会議での発表（商工会議所） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回コンソーシアム委員会（学校運営協議会） ・ 地域関係団体との懇談会②
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「伊丹探究フォーラム（伊丹市）での発表 ・ 「尼崎でつながる地域の活動報告会」（尼崎市）での発表 ・ 県教育委員会「兵庫県立高等学校探究活動発表会」（神戸市）での発表 ・ コーディネーター全国フォーラム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評議員会②
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ “地域と絆” 探究発表会（仮称） 	

2 令和8年度 尼ゼミ年間計画

(1) 尼ゼミ I

学 年：第1学年

教科・科目：地域科学探究・尼ゼミ I

使用教科書：なし

単 位： 2単位（年間70時間）

研究テーマ	<p>【尼崎を知り、尼崎と動く】</p> <p>探究対象を身近な地域社会の課題に絞り、地域が抱える課題や魅力を探究し、気づきを発信、共有する。また、社会体験等の独自のプログラムを通して、社会への関心を高め、「地域探究力」の基礎になる問いを立てる力、調べる力、まとめる力、他者の意見を傾聴しながら自分の考えを伝える力を育てることを目指す。</p>
-------	--

期間	指導内容	探究的な学習に関する取組内容	配当 時数
第 1 学 期	<p>○オリエンテーション</p> <p>○県尼を知る</p> <p>○尼崎を知る「環境」「歴史」「企業」</p> <p>○ミニ探究 「各企業のSDGsへの取組と課題」</p> <p>○地域イベント「尼崎環境フェア2026」への参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「探究」について理解する ・入学前課題「ミニ調べる学習」をクラス内で共有する ・図書館オリエンテーション ・【外部講師①1h：本校元校長】講義、ワークショップ ・【外部講師②2h：県民局】講義、ワークショップ ・【外部講師③2h：県立尼崎の森】講義、フィールドワーク ・【外部講師④2h：尼崎市立歴史博物館】講義、ワークショップ、フィールドワーク ・【外部講師⑤6h：尼崎の企業】講義、ワークショップ、企業見学、インタビュー ・ミニ探究のまとめと発表準備 ・企業ブースの準備・運営・参加者への説明 ・ミニ探究発表会 	26

第2学期	○夏季休業課題「業種別職業体験」 ○大学見学 ○尼崎を知る「行政」「防災」「福祉」 ○防災学習 ○地域連携探究活動 ○地域イベント「尼崎市民まつり」への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・【外部講師⑥2h：尼崎商工会議所】講義、ワークショップ ・【外部講師⑦2h：関西大学教授】探究活動に必要な知識及び技能の講義、ワークショップ ・【外部講師⑧2h：尼崎市総合政策局】講義、ワークショップ ・【外部講師⑨2h：尼崎市重層支援課】講義、ワークショップ ・【外部講師⑩2h：尼崎市防災課】講義、ワークショップ ・【外部講師⑪2h：北淡震災記念公園語り部】講義、フィールドワーク ・連携対象機関と協働して探究学習を行う。 ・本校ブースの準備・運営を行う。 	30
第3学期	○探究学習発表 ○振り返りと計画書づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・発表に向けてポスターやプレゼンテーション資料を作成、発表練習、発表 ・年間の活動の振り返り、次年度の探究に向けてテーマ（問い）の設定し、計画書を作成 	14
探究的な学習を実施する時数の計			70

※ 2学期制の学校においては、「前期」・「後期」の区分とすること。

【評価方法】

課題プリント、レポート、発表資料などの成果物、プレゼンテーション、振り返りシート、授業・校外活動への取組状況などを評価材料とし、育成を目指す8つの資質・能力について、各々5段階に評価したルーブリックに基づき、総合的に評価する。

(2) 尼ゼミⅡ

学 年：第2学年

教科・科目：地域科学探究・尼ゼミⅡ

使用教科書：なし

単 位：2単位（年間70時間）

研究テーマ	<p>【尼崎を動かす】</p> <p>テーマ（問い）は他人事でなく自分事として、自分の進路や将来、現在・未来の生活に関わる気づきから発想し、かつ、他者にとっても意味のあるテーマや社会的な課題に繋がるテーマへ深めたテーマ（問い）を設定する。</p> <p>探究を進めるにあたっては、「教育」「福祉」「行政」「歴史」「文化」「企業（産業）」「環境」「防災」の分野別に個人またはグループでの活動とし、コンソーシアムを中心としたテーマに関連する機関との連携を密にし、継続的な連携・協働を基本とし、多くの他者と協働することに努める。科学的な方法や根拠に基づいた結論に導き、課題解決・改善に向けた提案をすることを目指す。</p> <p>校外のコンテストなどへの積極的参加も進める。</p>
-------	---

期間	指導内容	探究的な学習に関する取組内容	配当 時数
第1学期	<p>○探究テーマ（問い）の決定</p> <p>○県尼を知る</p> <p>○尼崎を知る「環境」「歴史」「企業」</p> <p>○地域連携探究活動</p> <p>○計画発表会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ（個人でも可）で行う「探究」のテーマ（問い）について分野を選択し、外部講師①～⑤の講義、ワークショップを受講し、情報収集を行い、決定する。 ・【外部講師①2h：大学講師】講義、ワークショップ ・【外部講師②2h：尼崎商工会議所】講義、ワークショップ ・【外部講師③2h：県民局】講義、ワークショップ ・【外部講師④2h：尼崎市立歴史博物館】講義、ワークショップ、 ・【外部講師⑤2h：尼崎市役所】講義、ワークショップ、 ・連携対象機関と協働して探究活動を行う。 ・年間のスケジュールやテーマ（問い）、仮説、探究の手法などの計画についてクラス内で情報共有する。 	26

第 2 学 期	○地域連携探究活動	・連携対象機関と協働して探究学習を行う。	30
	○中間発表	・【外部講師⑥～⑧による指導】校内にて、発表資料（ポスター又はスライド）を用いて現段階までの活動報告を行い、他者評価を含めた修正等を行う。	
	○校外コンテストなどへの参加	・校外のコンテストなどへ積極的に参加する。	
第 3 学 期	○探究学習発表	・発表に向けてポスターやプレゼンテーション資料を作成、発表練習、発表	14
	○振り返りと計画書づくり	・年間の活動の振り返り、次年度に向けて計画書を作成する。	
探究的な学習を実施する時数の計			70

※ 2学期制の学校においては、「前期」・「後期」の区分とすること。

【評価方法】

課題プリント、レポート、発表資料などの成果物、プレゼンテーション、振り返りシート、授業・校外活動への取組状況などを評価材料とし、育成を目指す8つの資質・能力について、各々5段階に評価したルーブリックに基づき、総合的に評価する。

3 令和8年度 総合的な探究の時間年間計画

(1) 総合的な探究の時間（セルフ＝ナビⅠ）

令和8年度 総合的な探究の時間（セルフ＝ナビⅠ）の指導計画

学年	内 容 ・ 時 期	
1 学 年	1 学 期	1 オリエンテーション（配当時間：2時間） ※外部人材1h ・ 探究学習とは ・ 探究学習を進める前に 2 情報を集める（配当時間：2時間） ・ 情報源の種類と信頼性（メディアリテラシー） ・ 情報の集め方と記録の取り方 3 情報を整理・分析する（配当時間：3時間） ・ キーワードや言葉の定義 ・ 新聞記事を用いて情報をまとめる 4 結果をまとめる（配当時間：3時間） ・ 文章の書き方と図・表のまとめ方 ・ プレゼンテーションの方法 5 調査・実験（配当時間：3時間） ・ アンケート、インタビューの手法
	2 学 期	6 課題設定（配当時間：4時間） ・ 問いを立てる ・ 興味関心のマンダラート作成 ・ 課題内容検討会 7 探究実践（配当時間：8時間） ・ 自由テーマまたは「尼崎の課題」 8 プレゼンテーション力をつける（配当時間：3時間） ※外部人材2h ・ 発声と姿勢 ・ グループディスカッション ・ 傾聴の方法
	3 学 期	9 探究発表会（配当時間：5時間） ※外部人材2h ・ 発表原稿作成 ・ 発表練習・リハーサル ・ 成果発表会 10 総括と次年度に向けて（配当時間：2時間） ・ 1年間の振り返り ・ 次年度に向けて

※ 2学期制の学校においては、「前期」・「後期」の区分とすること。

(2) 総合的な探究の時間（セルフ＝ナビⅡ）

令和8年度 総合的な探究の時間（セルフ＝ナビⅡ）の指導計画

学年	内 容 ・ 時 期	
2 学 年	1 学 期	1 オリエンテーション（配当時間：2時間） ※外部人材1h ・探究学習を進める前に 2 課題設定（配当時間：4時間） 3 手法（配当時間：2時間） 4 データサイエンス（配当時間：2時間） ※外部人材1h 5 結果をまとめる（配当時間：2時間） ※外部人材1h 6 探究実践（配当時間：2時間）
	2 学 期	6 探究実践（配当時間：16時間） 担当者12名ごとの12班のゼミ形式でグループまたは個人探究を行う。
	3 学 期	7 探究発表会（配当時間：5時間） ※外部人材2h ・発表原稿作成 ・発表練習・リハーサル ・成果発表会 8 総括と次年度に向けて（配当時間：2時間） ・1年間の振り返り ・次年度に向けて

※ 2学期制の学校においては、「前期」・「後期」の区分とすること。

文部科学省 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）
令和7年度 実施報告書

発行日 令和8年3月31日

発行者 兵庫県立尼崎高等学校

〒660-0804 兵庫県尼崎市北大物町18-1

TEL 06-6401-0643

FAX 06-6401-0645



スクール・キャラクター

ことじろう